

二七	豌豆彌地病 <small>イキヤデ</small>	勢力衰へ、莢に紫紅色の暈を生ず。	連作を避け、草木灰及磷肥を施すべし。又一反歩に付木灰十貫―十五貫を施すべし。
二六	薯苔白銹病	病部は白色の斑点を生じ、後外皮破れて白粉を散じ、畸形となる。	三斗五升式ボルドー液を撒布すべし。
二九	薯苔菌核病	病部は皮層腐敗し、内部空洞となる。而して全体萎縮枯死すること多し。	一二回三斗式ボルドー液を撒布すべし。
三十	苹果梨の赤星病	病葉は橙赤色の小斑点を生じ、裏面には毛状突起を出す。	開花前より果實の大豆大なるまでに、三斗式ボルドー液を撒布すべし。

三一	梨黒星病	幼稚なる部に發生し、黒色の斑点を生ず。	前者と同じ
三二	苹果腐爛病	枝梢に發生し、樹皮褐色を呈し、水膨れとなる。	春發芽前に石灰硫黄合劑又は二斗式ボルドー液を撒布すべし。
三三	苹果褐斑病 <small>(苦腐病)</small>	果實に褐色の斑紋を生じ、中央陥没して苦味を呈す。	幼果の少し成長したる頃より、ボルドー液を撒布すべし。
三四	葡萄白澁病	病葉の表面には、点々白粉を撒布し、遂に白斑中に黒粒を生ず。	果實豆大となれば、四回三斗式ボルドー液を撒布すべし。

三五	葡萄露菌病	病葉は初め黄斑点を生じ、後褐色となる。 果實は萎縮す。	前者と同じ
三六	桃縮葉病	主に桃の嫩葉に生じ、葉は著しく捲縮す。	苹果梨の赤星病と同様にすべし。

畜産編

農業と畜産

畜産編

第四十 農業と畜産

我が國の農家は、比較的耕種の法に通ぜりと雖も、畜産の事に至りては、未だ智識經驗に乏しく、能く是れを利用して、農業經營の完全を計るもの少なし。

家畜を飼養して、其の生産物を收むること、素より農業に外ならざれども、古來久しき慣習上、之れを農業の外におきて、深く顧みず、人糞尿其他油粕・大豆粕・魚肥等、所謂金肥の利用頗る周到なるに反して、家畜生産の肥料に重きをおかず、乳肉の如き食料品を始め、毛織物其他諸種の工藝品の如き、家畜の生産に俟つべきもの甚だ多きに、注意少なかりしは、遺

憾なりと謂ふべし。

歐米諸國に於ては、古くより、畜産の欠くべからざるを知り、土地の改良、地力の維持、衣食の供給等、普く之れが利用に就て研究せられ、従つて多くの家畜を飼養して、基礎確實なる合理的農業を営めり。

今大正九年本道統計によれば、牛二萬一千頭、馬十七萬六千頭、合計十九萬七千頭にして、之れを既墾地に對比すれば、約四町歩に就て、牛馬一頭、又之れを全農家戸數に比すれば、一戸當り僅かに一頭強を有するに過ぎず。されば之れが生産する厩肥を以て、よく地力を維持する能はずして、年々莫大の金肥を使用するも、尙年と共に地力は減耗して、作物の品質は劣惡となり、收穫亦減少するもの、少なからざる状態なり。

翻て、本道農家の、五町歩經營上に就て見るに、内五反歩乃至七反歩の、牧草地を有すれば、圃場の莖稈類を併せて、大家畜三頭を、飼ふことを得べし。三頭の大家畜よりは、一ヶ年六千貫目の、厩肥を得べく、之れを肥培して地力を増進し、作物の收穫を多量ならしむべし。而してもし夏期放牧地の便あれば、更に小家畜五六頭を、飼養し得べし。

大家畜は三頭の中、牝馬一頭を以て、耕鋤と繁殖とに供し、牝牛二頭より牛乳を收め、且蕃殖せしむるときは、副收入として、肥料の外、仔畜の多大なる利益を、收むることを得べし。而して、水田地方の如く、産馬の容易ならざる場合は、藁及糠を利用して、乳牛又は肉牛を飼養し、其乳肉を得るの外、多量の厩肥を、收むるの有利なるを、思はざるべからず。牛肥は、其の價值馬肥と大差なく、殊に高丘地、火山灰地の如

き、早魃し易き處にては、馬肥よりも一層効果大なり。而して一頭の綿羊は、一ケ年二三百貫、豚は三四百貫の肥料を得べく、圃場の脱粒及廢物によりて、十五羽乃至二十羽の鶏を養ふこと容易にして、一羽の鶏よりは、約十貫匁の肥料を産すべし。

斯くの如く、農牧混同の農家は、隨時の收入と副收入の爲めに、日常の生活安全にして、遂に確固たる基礎を築き得べし。されば、もし不幸にして、凶作の歳に遭遇するも、其の受くる打撃は、極めて凌ぎ安かるべし。すなはち如何に凶歳と雖も、作物の莖葉は、常の如くに繁茂すべく、従つて動物の飼料に利用せられて、牛乳となり、或は肉となり、以て吾人の食物に供せられて、他に救済を仰ぐがが如き遺憾を見るに至らざるべし。之等は明治三十七年日露戦役中、東北諸縣の凶

大正	年度	内國種	雜種	外國種	計
道	管内				
本支	管内				
本	村				

作に於ける、または大正二年本道不作に於けるが如き、實例に徴するも明かなることなり。農業と畜産と離るべからざること斯くの如し。されば農家は、益々集約的混同農業を行ひ、家畜は徒らに放牧に委せず、労力と副産物の利用に努め、以て收入の大ならんことを心懸くべきなり。

第四十一 牛

牛は、極めて古くより家畜として人に飼養せられ、我が國に於ては、開國以後久しからずして、朝鮮より入りたるものゝ如し。本道に於ては、其起原明かならず。貞享元年、渡島國白神崎に、白牛の漂着せしは、恐らく始めなるべし。而して牛の改良は、明治七年開拓使に於て、「タルハム」「ハイグレ

品名	煉乳	バター	チーズ	ハム	ベーコン
数量	2,639,419 斤	221,169	12,555	4,185	933
價格	1,570,872 円	326,811	14,656	3,888	616

「ド」の輸入を始めとして、後各品種の輸入を見、今日の如く盛況をなすに至れり。

牛は性温順にして、よく人に馴れ、輓用農用の如き力役に用ひられ、或は其乳及び肉は、滋養多ければ、食品として貴ばれ、世の需要日を追ふて増し、畜牛業の將來は、益々多望と云ふべし。

大正九年本道統計を見るに、内國種七十四頭、雜種一萬八千四百四十九頭、及外國種三千三百二十四頭、合計二萬五千五百四十七頭あり。

道廳は大正十一年畜牛増殖の計劃を立て、大正二十二年に於て八萬一千頭、大正四十一年に於て四十九萬五千頭を得んごし、今や官民共力して、之れが遂行に力めつゝあり。

一、牛の品種

牛の品種は頗る多く、之れを分類するに、類原牛・長額牛・大額

役用種

牛・短額牛等の如く、骨骼を基礎とするもの、或は英國牛・和蘭牛等の如く、産地に依りて分類する法等あれども、通常用ひらるゝものは、役用・肉用・乳用及兼用の如く、其の用途に依りて分類せらるゝものなり。

されども、こは絶対的の謂にあらずして、唯其の能力の優れたる程度に應じて、分ちたるものなれば、従つて兼用種と云ふは、二用以上の程度に利用せらるゝものなり。

一、役用種

役用牛は、性温順にして、骨骼逞しく、筋力によく張り、特に頸肩及胸部の發達十分なるを宜しとす。

體色は、人各々嗜好ありて、一定せざれども、一般に黒色のものに強健なるもの多し。

役用に適するものは、黄牛・水牛及日本牛にして、中にも日本牛は、我國に於て最も廣く飼養せらる。

日本牛

一、日本牛 日本牛は、一般に體軀矮小にして、平均八九十貫を出でず。成熟晩くして、泌乳量極めて少なく、外國種が、一年に十石乃至四十石を出だすに、日本牛は、漸く犢牛の育成に、辛じて充つるに足るに過ぎず。体色は概ね黒色にして、皮毛粗剛なり。また胸部よく發達すれども、後軀はこれに比し、發育不十分なるもの多し。長く飼養粗悪に慣れ、身體頑健にして、疾病に犯さるゝこそ少なく、伶俐にして、よく役務に服す。之れを屠殺して、肉を得る割合少なけれども、味佳良にして、殊に中國地方に産するものは、神戸牛の名によりて、世界に識らる。

北海道には、開拓使時代に、牛の基礎を作らんが爲め、南部牛及中國牛を入れたるを始めとして、主に輓用に使

肉用種

短角牛
シヨートホルン

乳用
シヨートホルン

二、肉用種

役したりと雖も、外國より、優秀なる牛馬が輸入せらるゝに及び、遂に顧みるものなきに到れり。而して本道に於ては、氣候風土の上より見るも、役用として、馬を利とし、肉用としては、内地に於ける市場に輸送するに、多くの費用を要し、道内に向つては、更に人口の増加して、肉の需要を加ふるまでは、乳牛の老廢せるもの、又は犢牛の、肥滿せるものを以て足るべし。

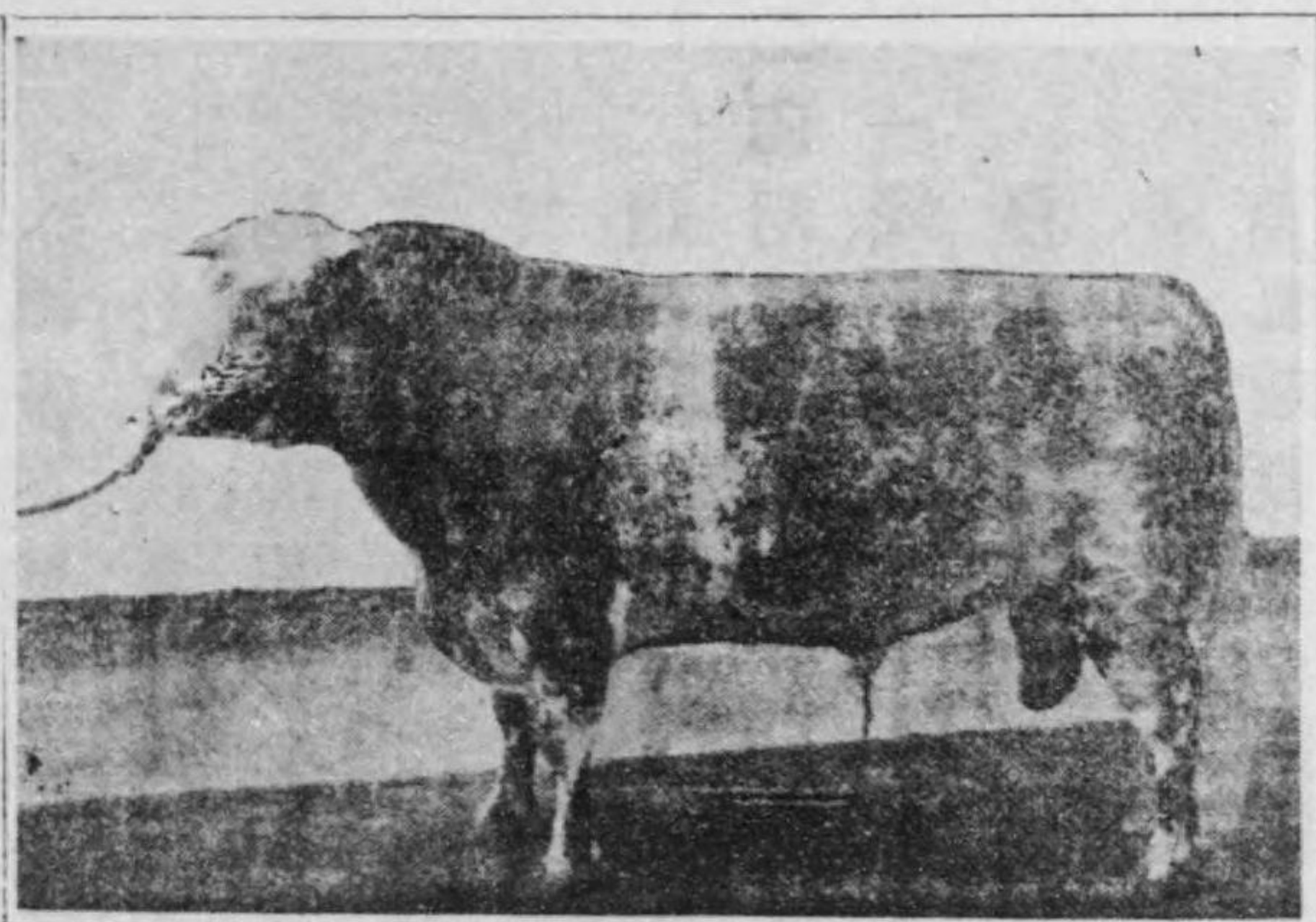
一、短角牛(シヨートホルン) 英國にて改良せられたる品

種にして、角の短かきを以て此の名あり。肉牛中、世界第一と稱せられ、また乳量も相應に出すものあり。乳用に改良したる乳用シヨートホルンは、一年十三石乃至三十石を出すものあり。されども役用に適せず。

本道には明治七年七重勸業場に輸入せられたるを以

て嚙矢とす。

體形長方形に近く、各部よく發達し、皮膚軟かく彈力あり、毛長く軟かにして、牝牛の額には縮毛あり。毛色は赤、色、白色または両毛の種々なる駁^{マダラ}赤白の刺毛等あり。早熟にして肥育また容易、二歳に及べば成熟し、體量、牝凡そ百四十貫乃至二百貫、肥育せる去勢牛は二百八十貫に達することあり。屠殺して得る肉量の割合多くして肉質纖維柔軟にして美味なり。乳は濃厚にて脂肪に



第六十五圖
短角種
シヨート
ホルン

無^{ヘレフ}角^{オード}牛

乳用種

エーヤシヤー

三、乳用種

一、エーヤシヤー

英國蘇格蘭の原産にして、本道には明

治十一年始めて輸入せられたり。體格堅固、角長く、頸の長さ中等、脊水平に、肋骨よく彎曲し、後軀の發育宜しく、乳頭稍短かきは欠點なり。皮膚纖細、毛色は普通赤

こみ、生乳またはバターの製造用に適す。

蓋し本種は、飼養管理に注意を要するものなれば、本道に於ては、この種と乳牛の雜種を作り、乳肉兩用の目的にて、飼養するは可なるべく、殊に水田地方にて、藁及米糠の多き地方、又は土地肥沃にして農耕に適し、牛乳利用の途開けざる地方に適すべし。

此の外肉用種には、二ヘレフオード、三無角牛等あれども、本道に廣く飼養せられず。其數甚だ少なし。

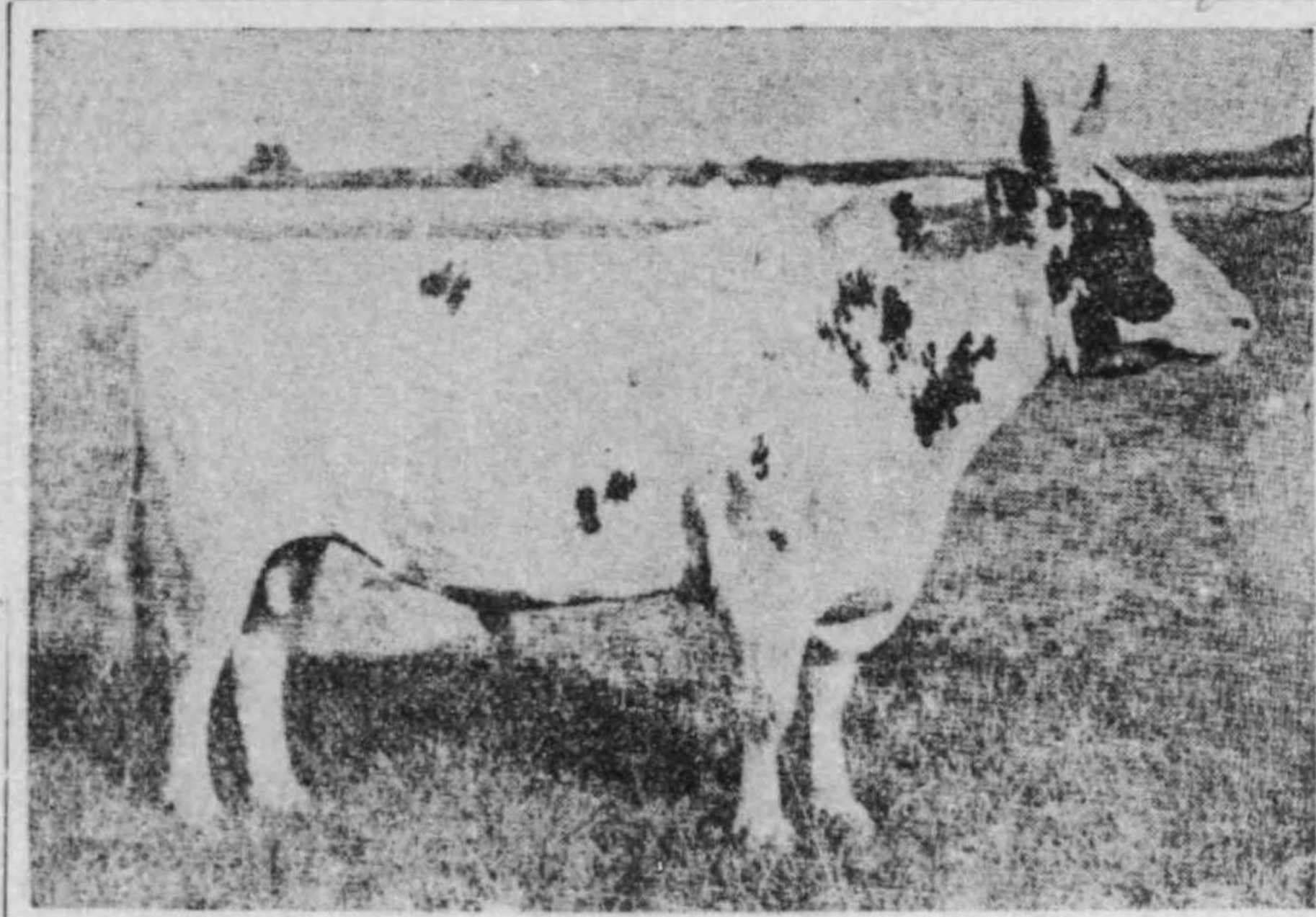
重比の乳八る得しな賣販
(則規締取乳搾)

全乳 1.028—1.034
脱脂乳 1.032—1.038

第六十六圖
エーシャー種

殺菌乳
牛乳の殺菌は、
バスター法に
よる。即ち五
分五秒に於て
沸騰せしめ、
六分五秒に於
て殺菌せしめ、
三分五秒に於
て殺菌せしめ、
或は七分五秒
に於て殺菌せし
め、三分五秒に
於て殺菌せしめ
る。可なり。

第四十一 牛



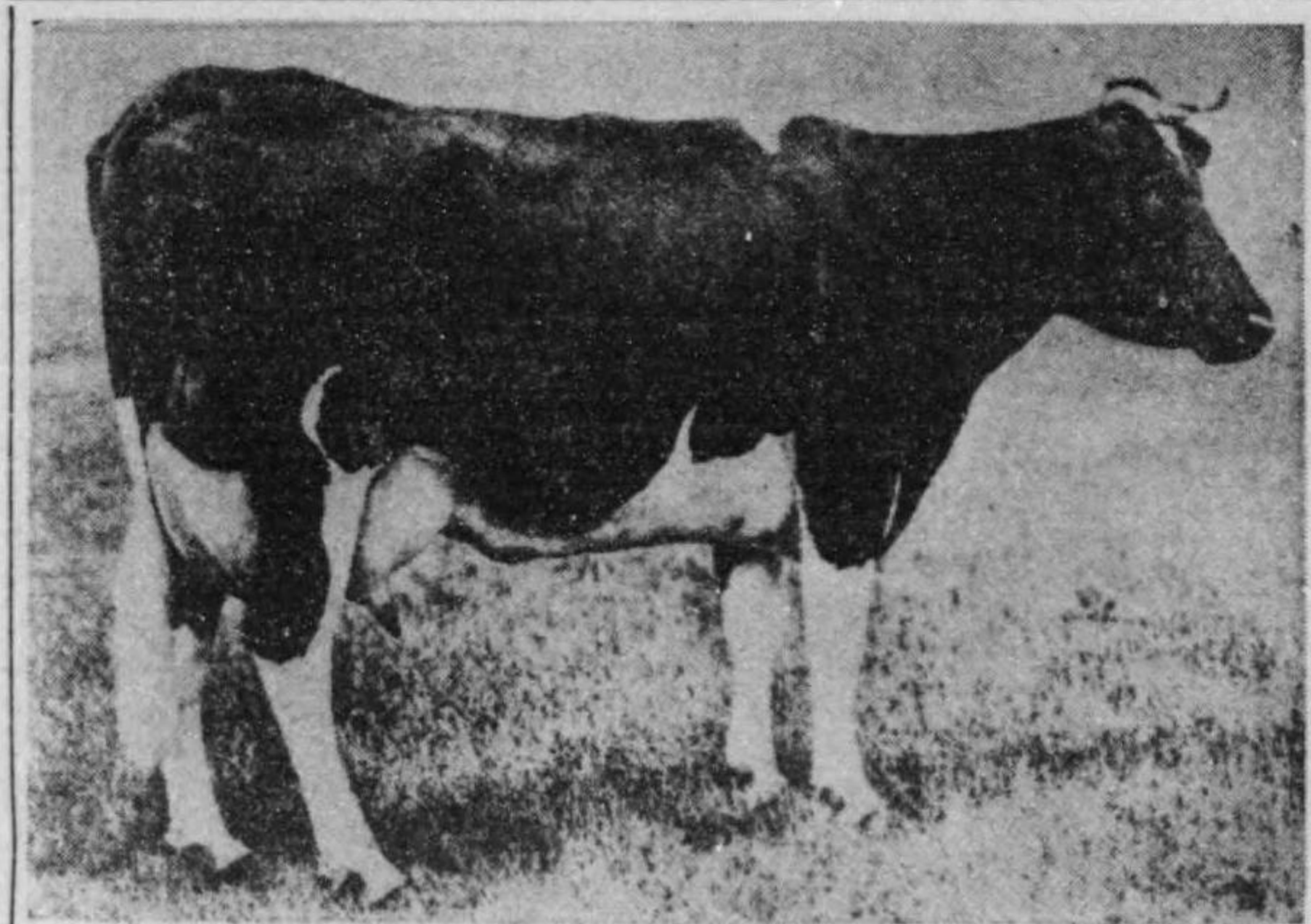
耐ふる強健なる乳牛なれば、本道に適するは勿論、山間

褐色、又は黄褐色に白斑を交へ、中には殆ど全體白色なるあり。角は細長く先端黒し。性敏感にして伶俐なり。體重牝百貫乃至百二十貫、牡百四十貫乃至百八十貫あり。泌乳量は、一ケ年十石乃至十五石を産し、時には三十石に達するものあり。乳質稍濃厚にして、脂肪三・八%を有し、生乳並にバターを製するに適す。

一九四

ホルスタイン
はホルスタイン
ンフリースアイ
ンとも云ふ

第六十七圖
ホルスタイン
アン種



の農家に到るまで飼養して利あり。

方は、好むで赤褐色と白色との斑を飼養するものあり。

二、ホルスタイン 和蘭に産し、本道には明治二十三年始めて米國より輸入せられたり。体格強大、脊高く、後軀の發育良好にして、頸細長く、鬚甲部尖りて、胸狭し。鼻鏡多くは黒色にして、角は体に比し稍小さく先端黒し。乳房は頗る大にして、皮膚は軟かく皺あり。毛は黒色と白色との斑を主とし、原産地の或る地

第四十一 牛

一九五

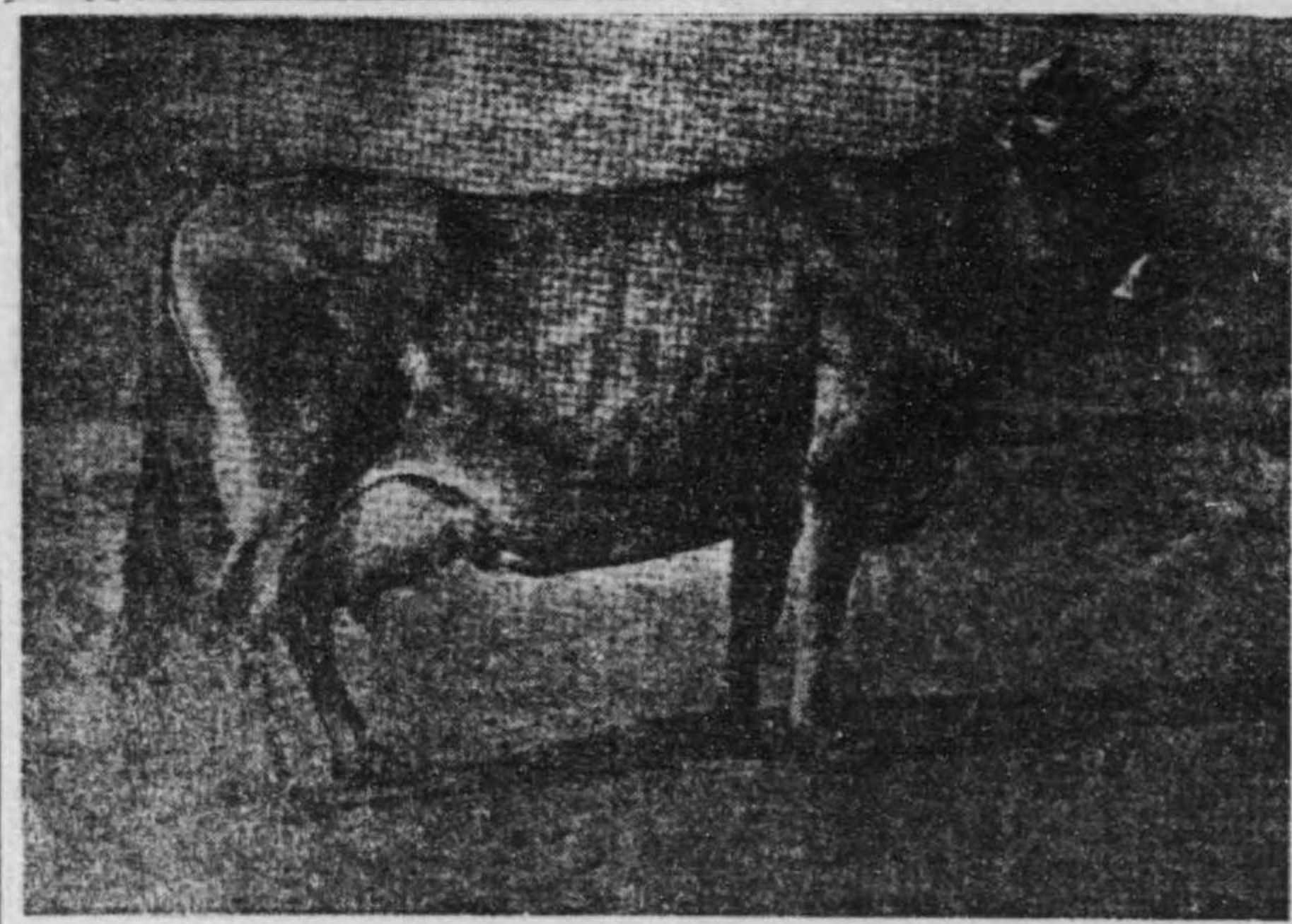
種類	水分	脂肪	乾素酪	蛋白質	乳糖	灰分
人乳	88.20	3.30	1.00	0.50	6.80	0.20
牛乳	87.10	3.90	3.00	0.40	4.75	0.75

されども四肢の下部、及腹の白きは特徴なり。体重牝百五六十貫、牡二百四五十貫あり。ホルスタインは、泌乳量頗る多く、一ケ年に十五石より三四十石に達し、中には八十石を出すものもあり。乳汁は脂肪三二%を有し、エーヤシャーに比すれば稍薄きも、生乳用の他、煉乳又はバター製造に適す。本種は本道に適し、廣く各地に飼養せらる。

三、ジャージー 英佛海峽群島中ジャージー島の産にして、本道には、明治三十三年牝牡各一頭輸入せしを始とす。体の後軀よく發達し、胸狭く、軀幹の形状恰も楔形をなす。頸部及四肢は共に細く、全体纖美、乳房大にして、皮膚は薄く黄色を呈し、毛軟かく、色は灰色より褐色に至

第六十八圖
ジャージー種

- 乳製品
- 一、煉乳
 - 二、牛乳
 - 三、粉乳
 - 四、乾乳
- その他
- 一、バター
 - 二、チーズ
 - 三、凝乳
 - 四、乳糖



り、尙殆んど白色のものあり。何れの色に於ても、鼻鏡

の周圍咽喉、腹及四肢の内側は、他の部よりも淡きを常とす。体重は牝八九十貫、牡百二三十貫あり。

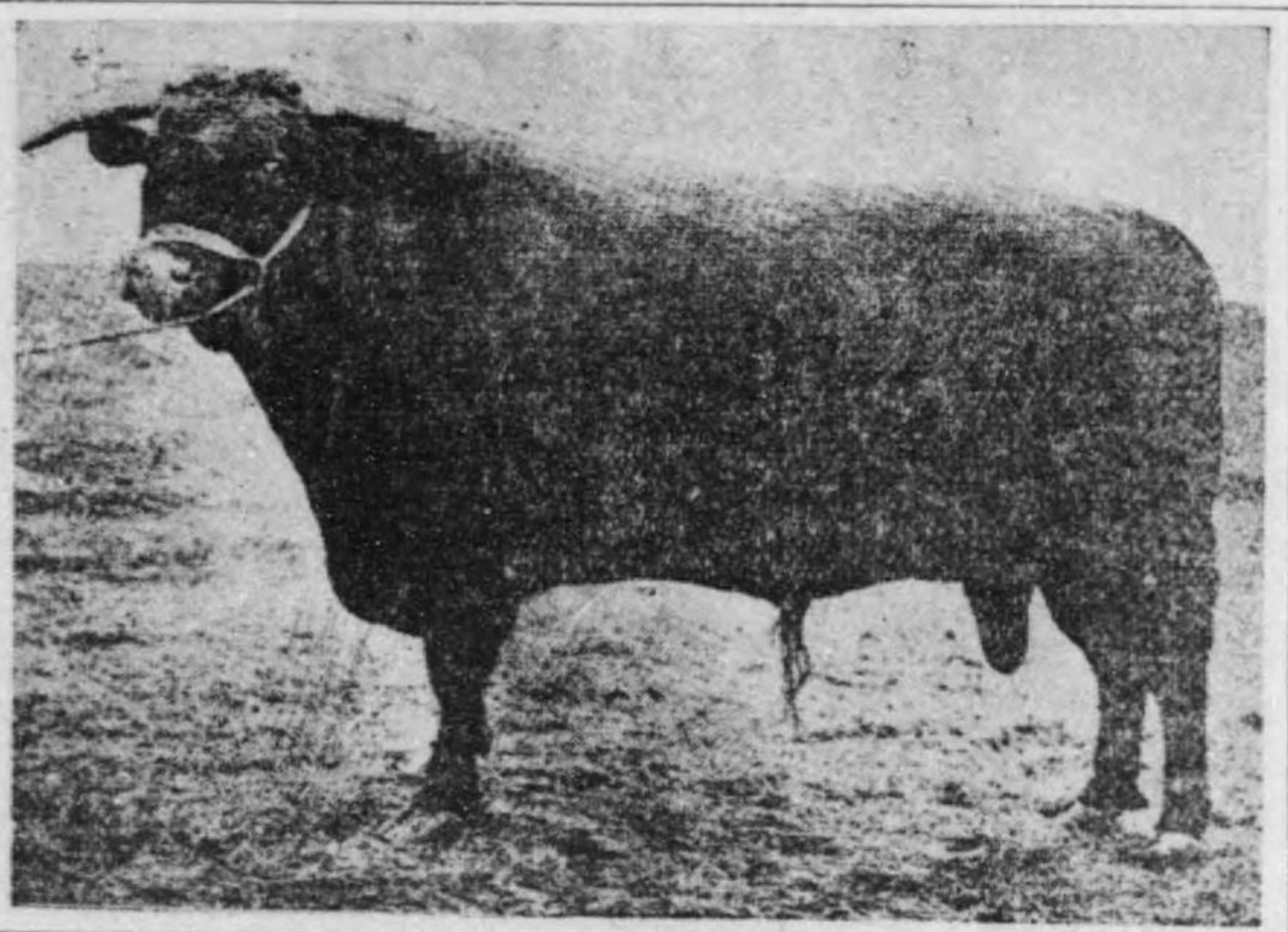
泌乳量は、一ケ年に普通十二三石を産し、其量多からず、雖も、乳質濃厚にして、脂肪にこみ、脂肪球大にして、生乳及バターの製造に適す。

性溫和にして、體質弱く、飼養に丁寧なる管理を要すべし。早熟にて、牝は十九ヶ月、牝は十五ヶ月を以て、已に蕃殖に

- 五、乳糖
- 六、脱脂乳
- 七、乳製飲料
- 一、ヨーグルト
- 二、ケフィール
- 三、マツフォン
- 四、レイン
- 五、クレーン
- 六、バター

第六十九圖

デブオン種



供するを得れども、蕃殖力弱し。

本種は寒地よりも暖地に適し、本道には其數多からず。

乳用種には、此の他ゲルンジー・フレンチ・カナデアン等あり。

四、兼用種

一、デブオン 英國の原産にし

て、體質強健、角長くして側方に出で、頸短かくして、後軀よく發育し、全体の釣合宜し。

体色は、濃厚なる海老茶色の單色にて、尾のみ白きものあり。

り。体重牝百貫乃至百三十貫、牡百二十貫乃至百八十

貫に達す。

此の牛は肉用と役用とに適し、肥育容易にして、肉量多く、體の各部は、一樣に肥満し肉付よく、肉質また佳良なり。氣候・風土に馴化すること易く、粗飼料に堪へ、且性伶俐活潑にて、力強く、持久力にとみ、歩行早ければ役用ととして可なり。

二、シンメンタール 瑞西國の原産にして、本道には、明治

三十九年始めて輸入せり。體大きく、額廣くして鬃を有し、頸より前軀にかけ皺多く、胸垂大、皮膚厚きも弾力あり、體毛長くして、黄色または赤色と白色との斑にて、顔と四肢との白きを特徴とす。體量牝百六七十貫、牡二百貫乃至二百五十貫あり。肥育容易にして、肉量多けれども味佳良ならず。又四

シンメンタル

肢丈夫にして力強く、歩み大にて速し。而して性質伶俐・温順なれば、役用に適す。乳量は一ケ年十二石を産し、乳質濃厚にして美なり。かくの如く此の種は乳肉役用の三用途を兼ね備へ、加ふるに體質强健にて、能く粗食に堪ふるが故に、獨逸・佛蘭西等の農家は、此の牛を飼養して其の經濟を裕かにせりと云ふ。

されども我が國に於ては、役用としては日本牛に劣り、肉の味亦美ならず。乳用としては、ホルスタイン又はエーヤシヤール等遙かに優れたれば現今にては其數少し。

二、牛の蕃殖

年齢 牛は滿一歳位より情慾を發すれども、普通一歳半又は二歳位より蕃殖に用ひ、乳牛は六産を過ぐれば、大抵乳量を減ずるが故に、改廢の用あるも蕃殖牛としては十二三歳まで用ふるを得べし。而して種牡牛は、六七歳迄用ふるを普通とす。

種付 牛乳を目的とする場合は、年中均等に搾乳し得る様に、時期を定めずして、種付をなし、又蕃殖を主とする場合は、秋期分娩せしむるを最良とし、遅くも二三月頃までに、分娩せしむる様に、交尾せしむるを可とす。

發情 牝は成年に達せる後にて、何時にても、種付し得るものにあらずして、發情期に於てのみ、之を行ふものなり。牝牛の舉動變化して、陰部膨大し、時々尿を洩らす等は、何れ

も發情の徴候なり。發情は大抵一兩日間を持續し、三週間毎に、再び周りに来るものにして、分娩後最初の發情は、分娩の日より、三十日乃至五十日目位に催すものなり。

妊娠 種付した後、發情せざれば妊娠と認むべし。妊娠すれば、性質温良となり、四五ヶ月を経れば、腹部の上方膨大となる。妊娠中は、特に飼養及管理に注意を要す。

分娩 妊娠して二百八十五日前後に到れば、分娩すべし。

産期近づくときは、腹部垂れ下り、腰部の両側は窪み、陰部は弛緩して粘液を漏らし、乳房も著しく大となる。此の期に到れば、産室を暗くして、敷草を充分に與へ、牛をして安易ならしむべし。分娩は、通例容易に行はる。仔の生れ落つるや、母は之れを舐めて、乾かすものなるが、もし舐めざれば、食塩または穀等を散布して舐めしむべし。

**牛の飼養
及管理**

飼 養

牛は四個の胃
作用をなす。
第一、第二、第三
胃は、消化液
を出さず、消
化は四胃は消
液を出す。

鼓脹病(牛
に發す)は、羊
中の食物が多
量に貯蓄され
、腹の膨大を
生じ、その部
は、膨大する
、(手當法)舌
を引き出し、
「リスル」を
用いて、氣を
ゆるめ、左
腹側を按摩
する。

去勢 種牡牛に見込なき牡犢は、生後二三ヶ月にして去勢すべし。去勢すれば性質温順となり、肥満して肉質を佳良ならしむるものなり。

三、牛の飼養及管理

飼養 良好なる牧草地あれば、青草期は、放牧するを可とすれども、少數の牛なれば、之れを畑地の周圍、其他良き草の生へたるところに、繋ぎて飼ふを得策とす。雨又は露に、ぬれたる青草を、多量に食するときは、鼓脹病を起すことあれば、必ず朝露の、乾くを俟ちて、放飼するか、又は先づ、乾草を六七分與へて後、青草に付けしめ、早春始めて、青草地に放飼せんとせば、放飼する時間を、短かくして、次第に青草に慣れしむべし。

家畜を飼養するには、常に自家經濟と、家畜の健康、及び其の

し、頻りに冷
水を注ぐべし。
尙治癒せざれ
ば、獣醫によ
るべし。

能力さに注意し、過不足なき様心懸くべし。
今左に本道に於て、最も普通に行ひ得る、二三の飼料配合の
例を示さん。

(甲) 乳牛一ケ年、十二石内外を産するものには、一日に付き、
一夏期は、青刈の牧草十四五貫目を給す。
二冬期舍飼のものには、

(一例) 乾草 一貫匁 エンシレージ 五貫匁

挽割燕麥 二百五十匁 挽割玉蜀黍 五百匁

挽割大豆 三百匁 麩 二百四十匁

(二例) 稻藁又は牧草 二貫四百匁 豆腐粕 一貫二百匁

麥糠又は米糠 九百六十匁 大豆 二合

甜菜又は蕪菁 一貫八百匁

(三例) 牧草 二貫四百匁 麩 六百匁

挽割玉蜀黍 六百匁

(乙) 乳牛一ケ年、十五六石を産するものには、冬期一日に付き、

(一例) 莖稈及牧草合せて 二貫匁 麩 六七百匁

燕麥又は玉蜀黍の挽割 五百匁 蕪菁 二三貫匁

(丙) 休息牛に對しては、一日に付き、

(一例) 稻藁 二貫五百匁

(二例) 稻藁 一貫二百五十匁 大豆稈 一貫匁

(三例) 大豆稈 一貫匁 燕麥稈 一貫匁

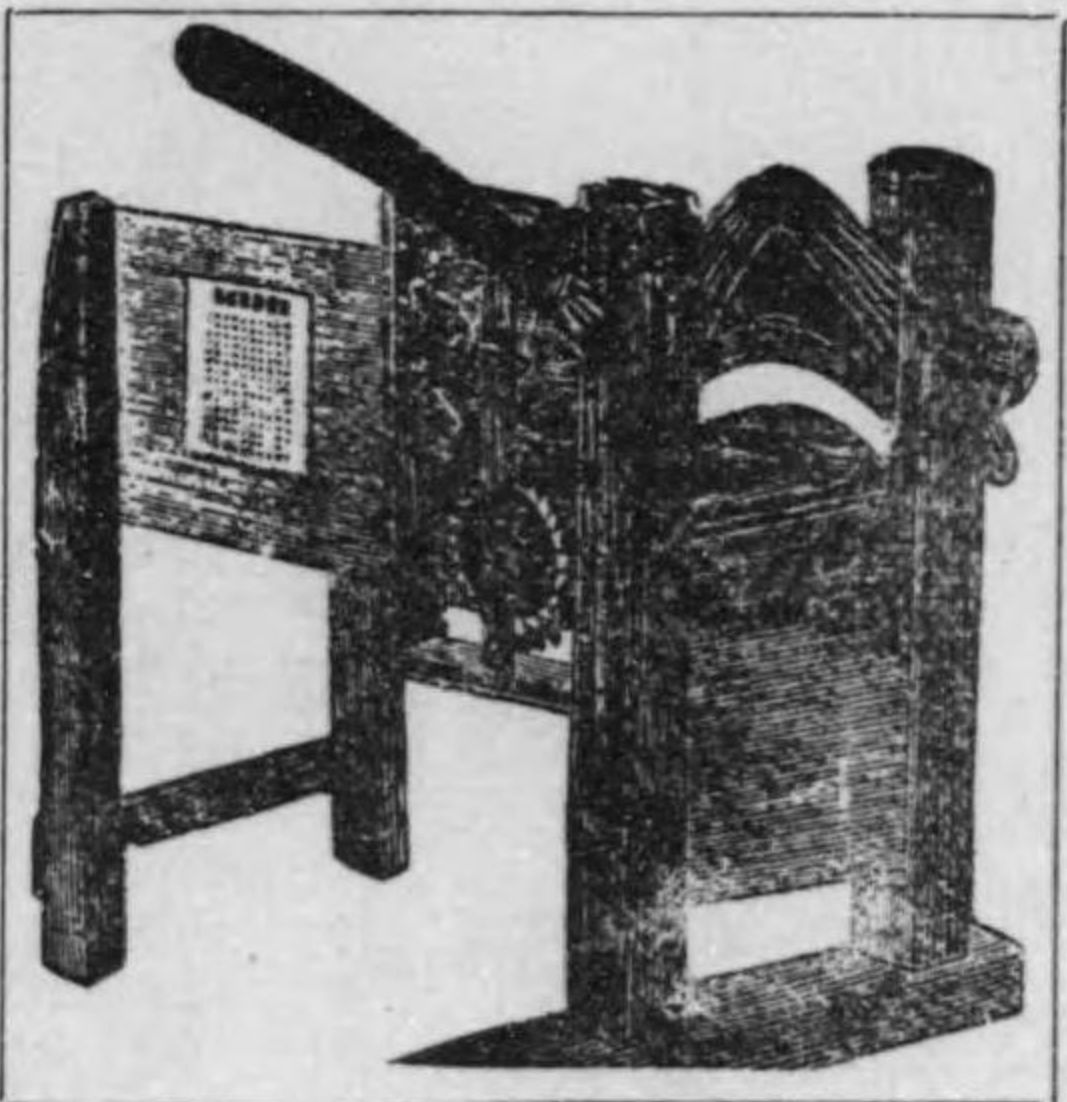
玉蜀黍 二百匁

以上は、僅かに數例に過ぎざれども、穀實・稈・秕・粕等を、巧みに
利用するときは、更らに飼養費を節減し得べし。而して莖
稈類は、家畜の飼料となるを以て、雨露に曝さず、之れを一寸
位に、剉切して與ふべく、尙粗剛なるものは、湯に浸して、豫め

軟化し、麩・食塩等を混じて、風味をよくして用ふべし。
飼料は、一頭一日に與ふべき分量を、三四回に分ちて、一定の時間を定めて、與ふべく、食塩は、成牛一日に五勺位、犢には二

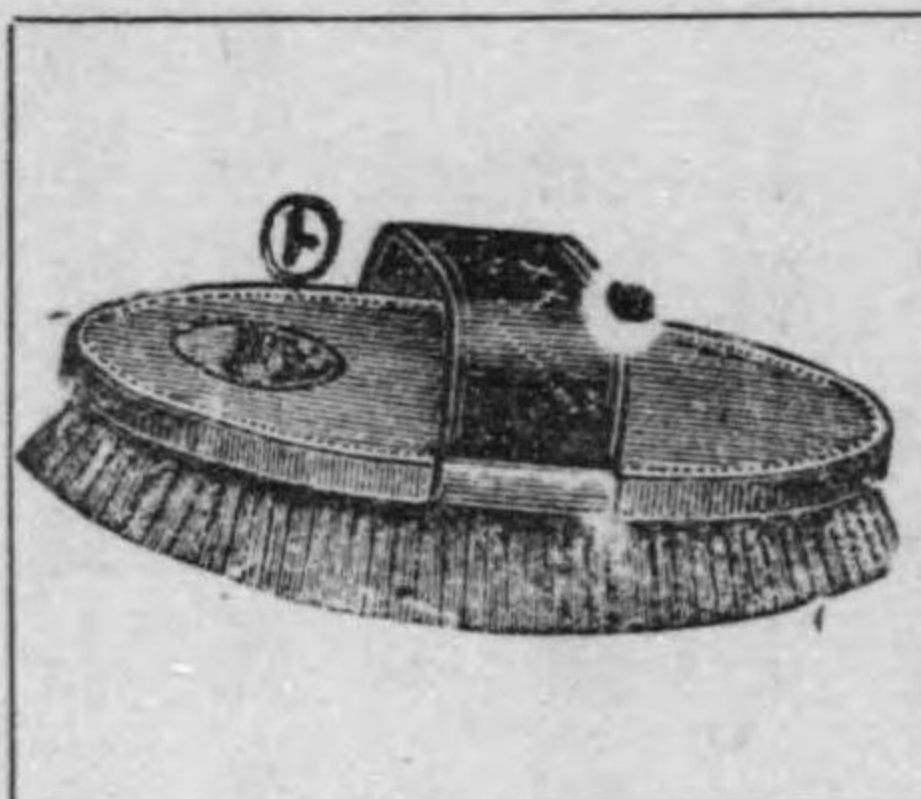
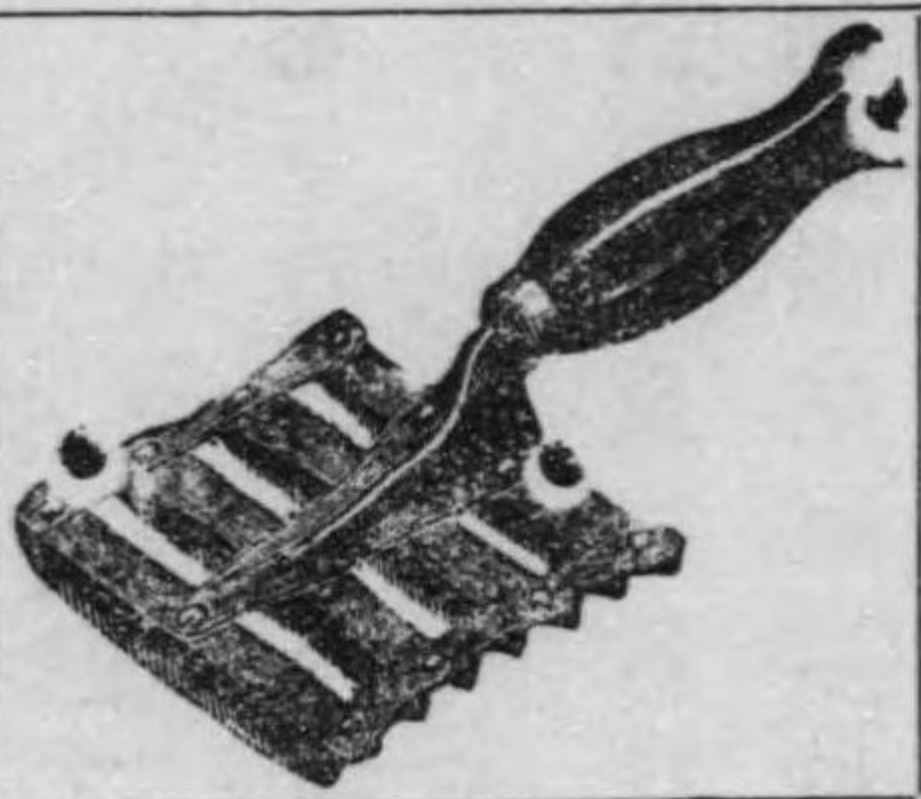
三勺位を與へ、飲料水は清水を與ふべし。

分娩せる母牛は、始め二三日間は、産前の約半量の飼料を與へ。次第に増して、二三週間に至りて全量を與ふべし。母牛は、産後一週間の乳は、普通の乳質と異なるものにして、犢には、必要なるものなれども、吾人の飲用に適せず。母乳は、最初より之れを搾取して、犢に與ふる可とし、初め一週間は、一二升の牛乳を、一日五六回に分與し、次週は四五回、三週目に



第七十圖
自動蒸切機

第七十一圖
金 柳



第七十二圖
毛アラシ

は三四升を三四回に飲ましめ、四五週間を経れば、全乳二升到、脱脂乳三升を混じ、後次第に全乳を減じて、脱脂乳のみを與ふべし。
而して、脱脂乳には、麩・油粕又は穀實の挽割を混じ、併せて草類をも與へて、漸次常食に就かしむべく、斷乳期は、飼養の目的によりて早晚あれども、五週乃至十二三週とし、種牡牛となすものは、數ヶ月に亘りて哺乳せしむ。牛乳を犢に飲ましむるには、必ず新鮮にして、體温と等しき温度に、温めて用ふべし。
管理 畜舎は、乾燥せる土地を選び、東南

又は南面して、冬は暖かく、夏涼しく、且窓も相當の大きに設

けて、空氣の流通、日光の透射を宜しくし、室は、適當の高さと廣さとを有し、床は、なるべく不透質の物質にて造り、五十分の一位の勾配を付けて、尿の排除を助くべし。
 牛は丁寧親切に取扱ひ、皮膚は、日々金櫛及刷毛等にてよく拭掃し、古き敷藁を去りて新しきものを與へ、食器は常に清潔に保つべし。

馬

第四十二 馬

北海道は、本邦産馬地として最も有名にして、我國總頭數、壹百五十萬頭の内、本道には、十八萬頭(大正十年調)を有せり。
 馬の本道に於ける起原は、牛と同じく明かならざれども、渡島福山附近には、早くより役に供せられたるが如し。而して馬の改良は、開拓使に於て、七重勸業場をたき、明治四年

大正	年度	内國種	雜種	外國種	計
道	廳	管内			
本	支	管内			
本	村				

馬の品種

一、馬の品種

米國より流星號を輸入したるに始まり、其後、札幌に札幌官園、根室に根室牧場等たかれ、明治九年札幌に、北海道廳種畜場、同十九年日高に、新冠御料牧場、同四十年日高種馬牧場、同四十二年長萬部種馬所、同四十三年十勝種馬牧場等設けられ、歐米より各品種を輸入して、之れが改良、蕃殖を圖れり。
 馬は温順、伶俐にして、力強きが故に、力役に適し、又よく疾走するが故に、乗用に適す。馬は農耕駄用の外、軍用上に大なる關係を有し、軍事機關の發達整備と、ともに、益々利用せらるゝものなり。

馬の品種は、普通其の用途によりて分類せられ、乗用、輕輓用及び重輓用の三種となす。而して別に之等を、輕種、中間種及び重類と稱することあり。

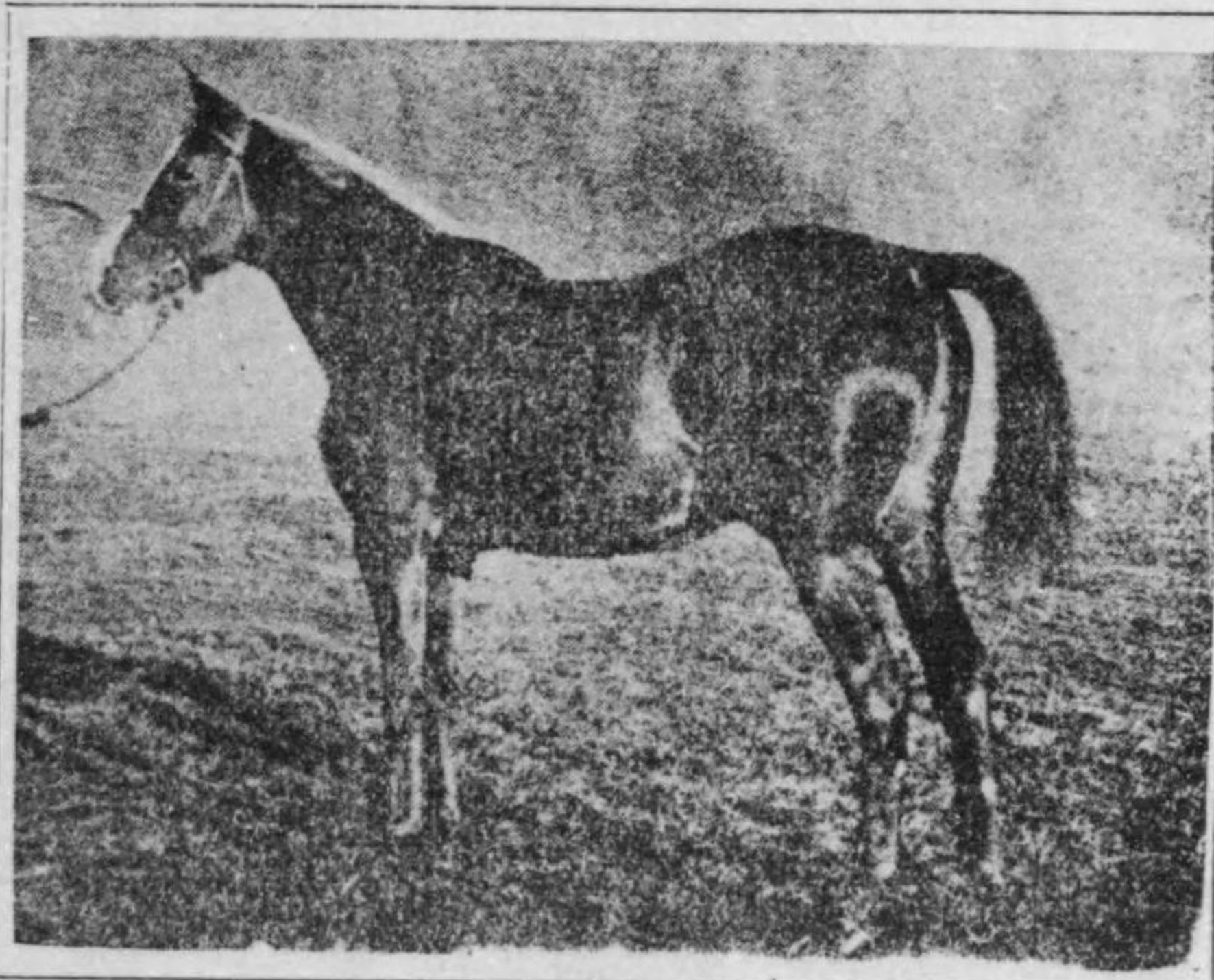
一、乗用種

乗用種
アラブ

本道には、明治二十三年、匈牙利産馬を、新御料場に、入れたるを、始めとす。

第七十三圖
アラブ種

サラブレッド



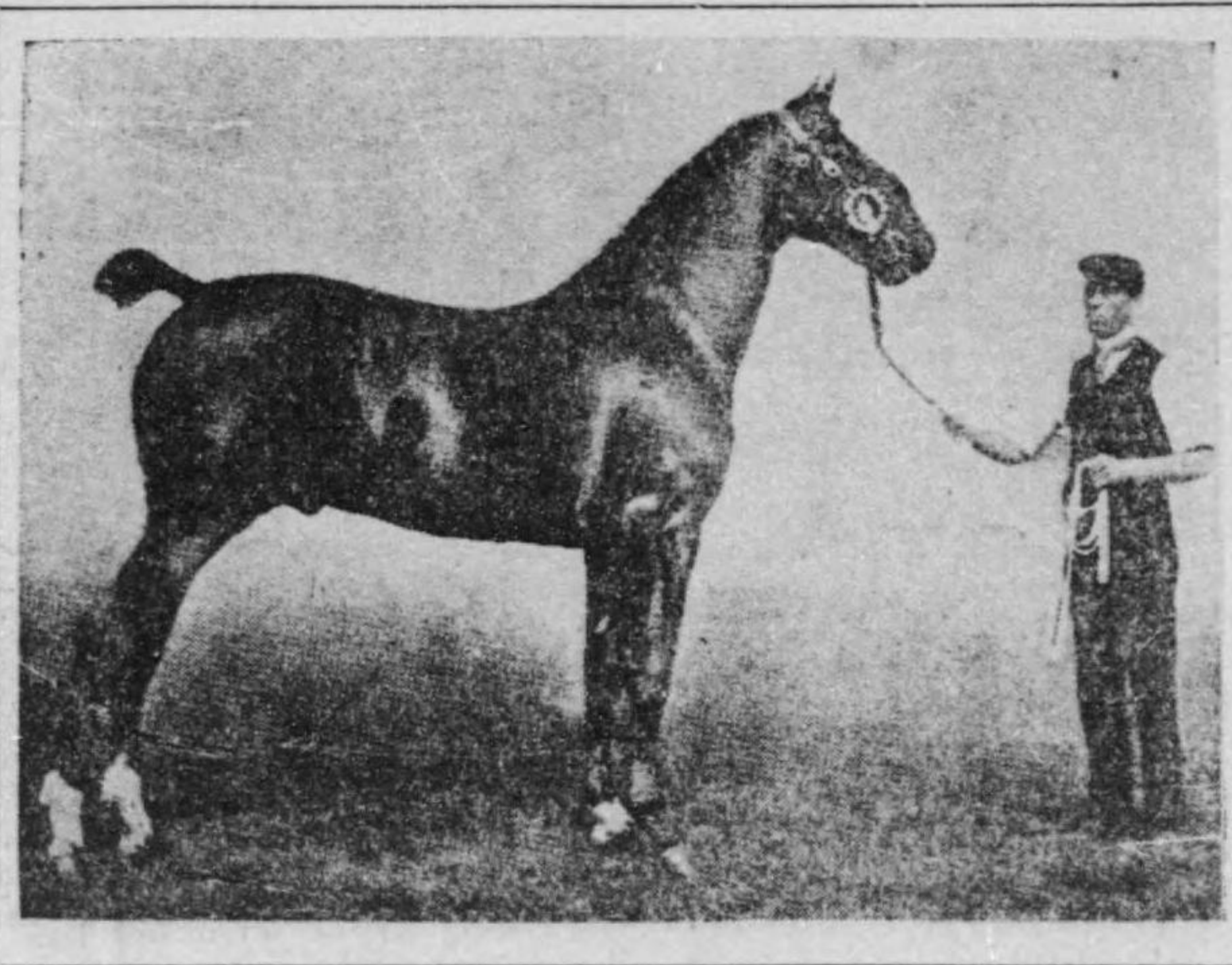
にして、英國純血種とも呼ばる。英國在來種に、アラブ

一、アラブ 亞刺比亞に産し、乗馬として世界に名高き良種にして、其體型は、馬體の模範と稱すべし。
體軀大ならず、丈五尺内外にて、各部の對稱宜しく、優美にて威容あり。性質伶俐、溫良にして動作敏捷、持久力にとみ、比較的容易に風土氣候に馴化し、遺傳力強し。

二、サラブレッド 英國の原産

本道には、明治十七年、濠洲より、新御料場に、輸入せるを、始めとす。

第七十四圖
ハックニー種



其他の輕種を交へ、速力を早むることを、理想として改良

したるものなり。本種は疾走力勝り、且其の能力の遺傳力強きが故に、世界到る處に賞讃せらる。
體軀長大にして、丈五尺三寸より五尺九寸に達し、筋肉よく發育せるも、一體に緊りて乾燥し、皮膚薄く軟かにして、皮下の血管等、よく外部に見はれ、四肢細長くして敏捷、輕快なり。

本種は、改良の度進めるものなれば、飼養管理に、尤も周

アングロアラブ

本道には、明治三十年始め、新御料牧場に輸入せられたる。

匈牙利馬

到なる注意を要し、又技倆ある人によつて、よく飼養するを得べし。

三、アングロアラブ 佛國の原産にして、アラブと、サラブレッドとの交配によりて作出せられ、大抵、原二種の間、の形質を備へ、我國馬匹改良上、種馬に供せられたるもの多し。

四、匈牙利馬 匈牙利國在來の馬は、體小にして、取るに足らざれども、國立種馬牧場にて、改良せられたるものに優良馬あり。

(イ) ギトラン は同名のアラブと、サラブレットとの交配によりて、成りたるものなれば、一つのアングロアラブなり。而して丈五尺三寸位あり。

(ロ) ノニウス アングロノルマンの、ノニウスと稱する

種馬を、祖として作られたるものなり。アングロ

ノルマンよりは、軽く丈夫なれども品格に乏し。

二、輕輓用種

五、ハツクニー 英國原産にして、ノーフォーク邊の在來馬に、サラブレットの交へて得たるものなり。骨骼や、太く、體形粗大なるも對稱宜しく、強健なり。

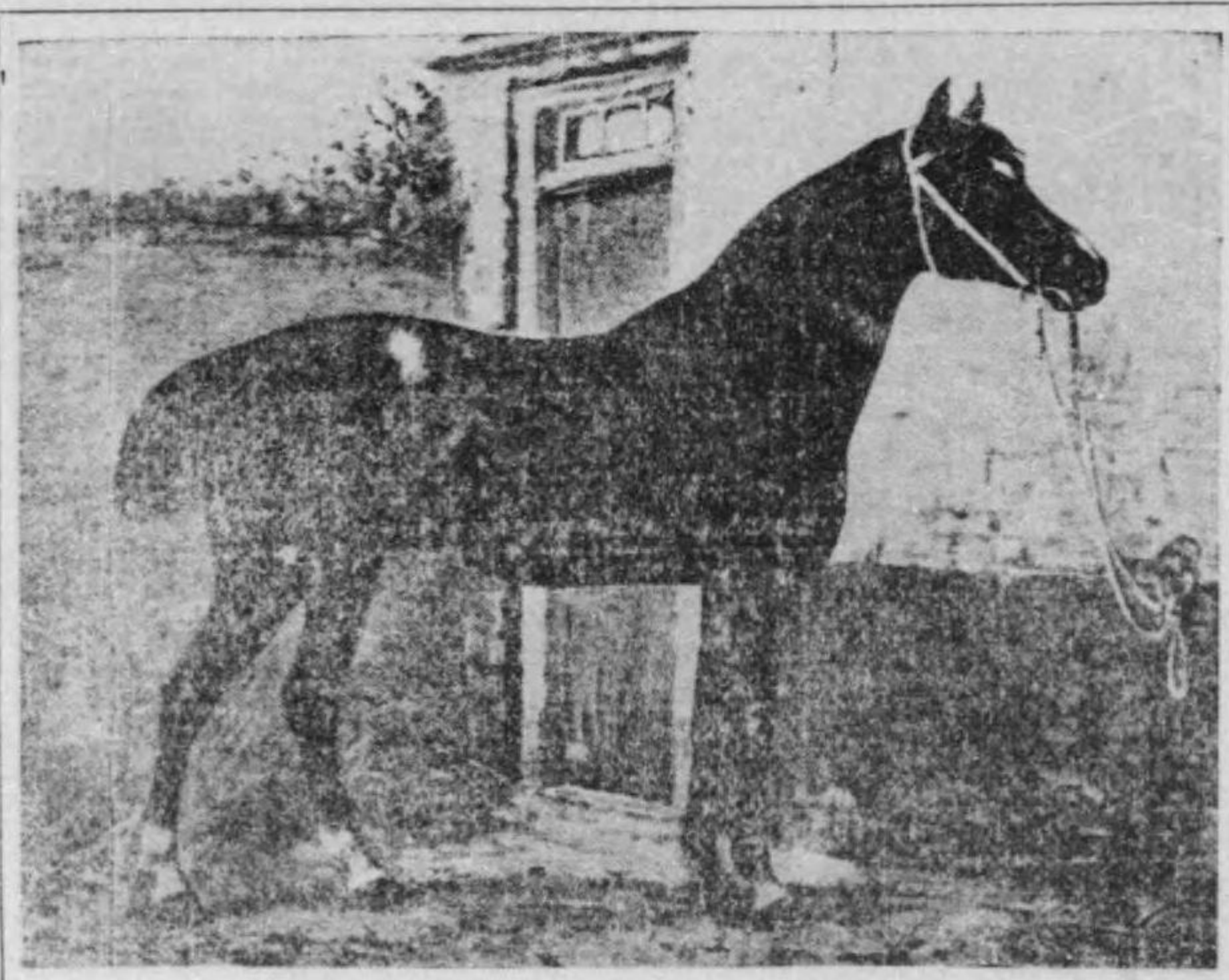
第七十五圖

アングロノルマン種

輕輓用種

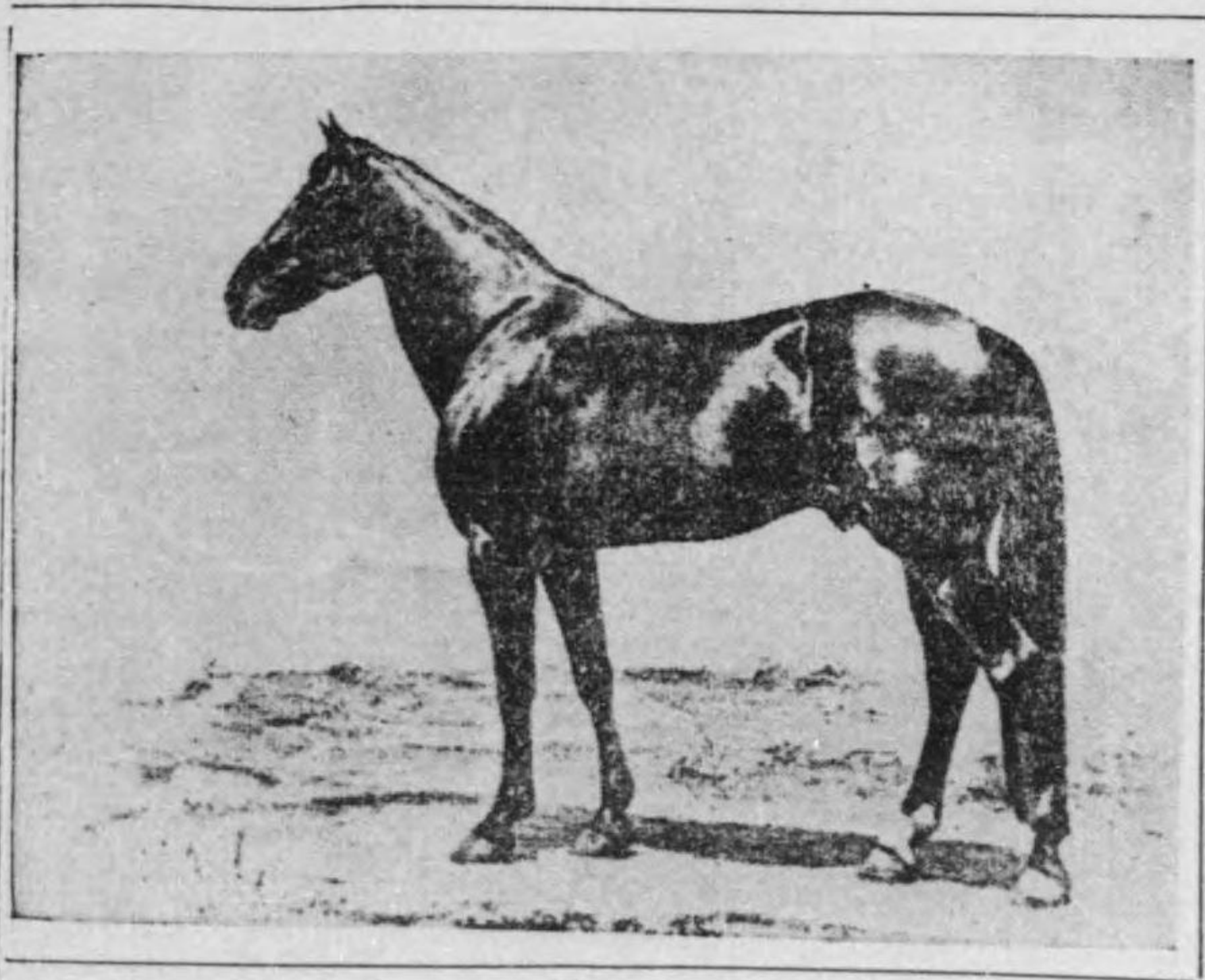
ハツクニー

本道には、明治三十年始め、新御料牧場に輸入せられたり



四肢強くして、連動敏活、歩様高く、輕車を牽きて疾驅す

アンゲロ
ノルマン
第七十六圖
アメリカン
トロツター種



るに適す。體尺五尺乃至五尺二三寸にして、鹿毛尤も多し。尾根を剔去するが爲めに、尾極めて短かし。

六、アンゲロノルマン 佛國ノルマン産の重馬にサラブレツドを交配して、得たるものにして、軀幹強大、四肢太く、丈五尺一寸乃至五尺六寸、鹿毛多し。馬車を牽きて、細蹠にてよく走り、持久力にとむ。駕車用の外、重騎兵用、又は砲兵輓馬にも適せり。

アメリカン
トロツター
本道には、明治四年米國より輸入せられたり、改良に馬匹の最も多し。

濠州馬

本道には、明治三十九年、濠州馬を輸入せられたり、全道各地に分布せり。

重輓用種
デク
ライ
デス
ルス

七、アメリカントロツター 米國ブアジニヤ州附近の地方馬に、サラブレツトを交へて得たるものにて、細蹠に於て名高し。

軀幹長大、丈五尺乃至五尺六寸、臀部豊圓にして、美容あるを貴ぶ。四肢丈夫にして、蹄宜しく、鹿毛、栗毛多し。風土氣候に對する抵抗力ありて、飼養管理亦容易なり。

八、濠洲馬 原產地濠洲に於て、始め南米より輸入せられ、後英本國より、サラブレツト及アラブを輸入して、改良せられて得たるものなり。丈四尺九寸乃至五尺四寸、寸位、鹿毛、栗毛最も多し。

三、重輓用種

九、クлайデスデール 英國の原産にして、體軀重大、四肢太く強し。長き距毛を多く生ず。丈五尺五寸位、體量

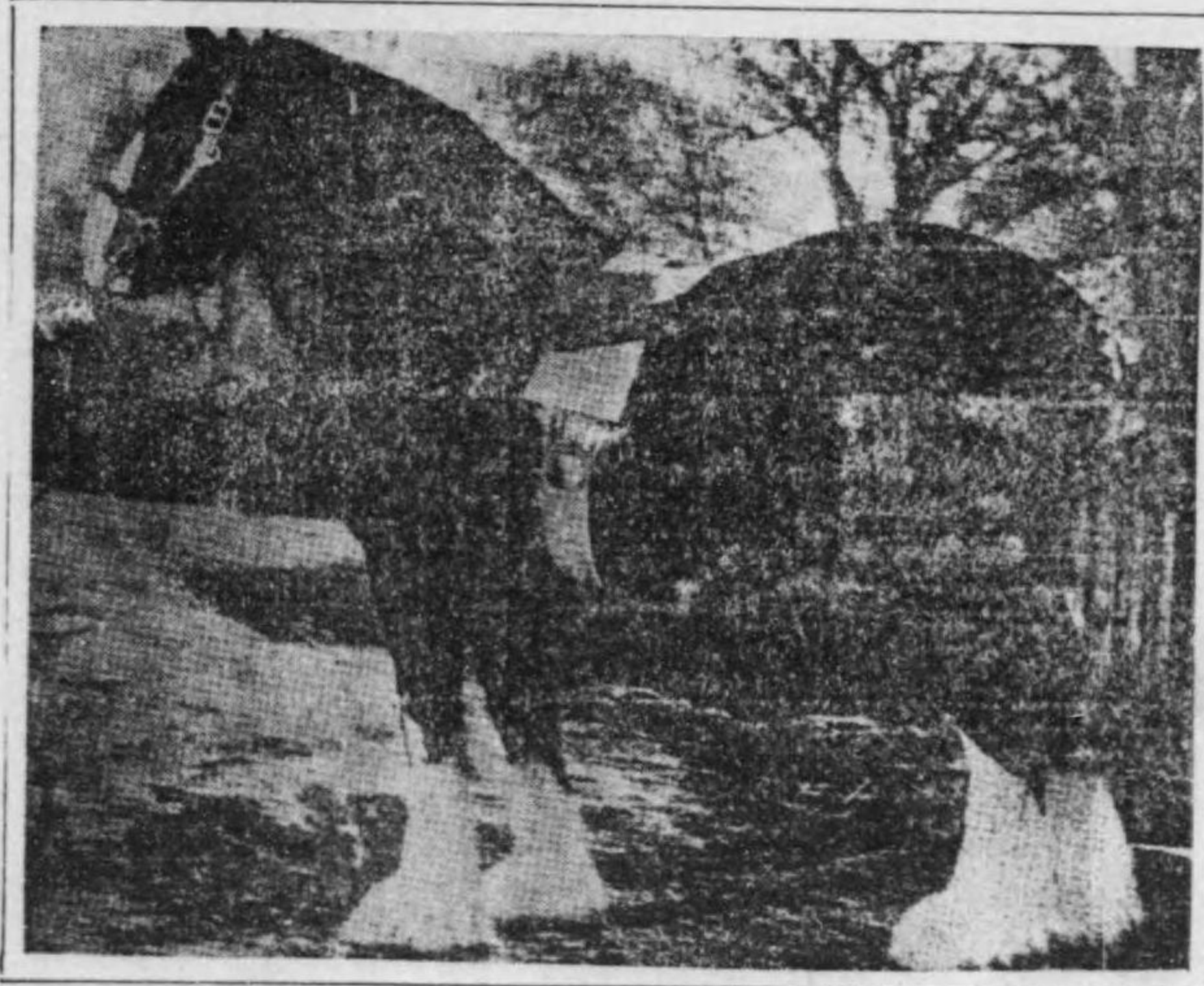
本道には、明治三十九年農商務省臨時貸下六頭を以て始めます。

ヘルシユロン

本道には、明治十九年米國より始めて輸入せり。

第七十七圖

クライテス
テール種



二百四十貫に達するものあり。鹿毛多く、且額及四肢に白微多し。頗る強力にして、運動割合に軽く、且速かにして耐久力にとむ。

十、ペルシユロン 佛國の重種にして、軀幹太く、四肢強し、體大なれどもよく緊縮す。丈五尺三四寸、蘆毛及青毛最も多し。性温順、沈着、舉動割合に軽く

日本馬

四、日本種

日本馬は、一般に體小にして、頭比較的大きく、體幅狭く、後部短くして傾斜し、筋肉の發育宜しからず。氣品に乏し。然れども割合に力強く、持久力に富み、粗食に耐ゆ。品種により、その間に多少特徴を異にすれども、概して、特に某種の用途に秀でたる長所を有せず。今日本種中の、主なるものを舉ぐれば左の如し。

南部馬

一、南部馬 巖手、青森地方に産し、日本馬中最大なるものにて、丈五尺乃至五尺三寸位あり。外觀粗野なれども、温順、強健にて力役に耐ゆ。

薩摩馬

二、薩摩馬 鹿兒島地方に産し、前者に比し丈や、低く、敏捷、活潑なれど、喧騒にして持久力に乏し。

北海道馬

三、北海道馬 通常土産馬と呼び、體小、丈四尺乃至四尺二

飼養

寸位にて、外貌粗野なるものあれども、體質強健にて持久力にこみ、小格の輓馬に適す。
此の他秋田馬・三春馬・仙臺馬・木曾馬・宮崎馬・島馬等あり。

二、馬の飼養及管理

飼養 北海道に於ては、春夏秋の三期は山野に放牧し、冬期のみ舍飼するを常とす。
今セテガストが定めたる、舍飼に於ける一頭一日の飼料標準を示せば次の如し。

馬の種類	燕麥	乾草	麥稈	備考
乗用軍用及び輕輓馬	八〇〇—一、二〇〇 <small>毎斤</small>	八〇〇—一、六〇〇 <small>毎斤</small>	二七〇— 四〇〇 <small>毎斤</small>	激役の時は燕麥を増す
重輓馬	一、二〇〇—一、六〇〇 <small>毎斤</small>	八〇〇—一、六〇〇 <small>毎斤</small>	二七〇— 四〇〇 <small>毎斤</small>	勞働強きときは全部増量す
輕	八〇〇—一、二〇〇 <small>毎斤</small>	八〇〇—一、二〇〇 <small>毎斤</small>	四〇〇 <small>毎斤</small>	

燕麥一升は約三百二十匁

馬乳成分

水分 八九・八〇
 脂肪 一・七七
 乾酪素 一・八四
 蛋白質 六・八九
 乳糖 六・八九
 灰分 〇・三〇

蕃殖要項

發情ノ初期 十八ヶ月
 蕃殖適齡 四歳—十二歳
 發情期間 二日—四日
 發情再周期 廿一日—廿五日
 分娩後發情 六日—十日
 懷胎日數 三百四十五日
 斷乳期 四ヶ月—六ヶ月
 去勢期 七ヶ月—八ヶ月
 蕃殖歩合 約七割

農用中	重荷車用		種牝馬
	重	輕	
一、二〇〇	一、六〇〇	二、〇〇〇—二、四〇〇	—
一、六〇〇—一、三〇〇	一、三〇〇—一、六〇〇	一、六〇〇—二、〇〇〇	二、〇〇〇—二、六〇〇
四〇〇—五〇〇	四〇〇—五〇〇	五〇〇	一、〇六〇—一、六三〇

貴重のものまたは老年のものは二百十匁乃至四百匁の燕麥を加ふ。

また種牡馬の飼料は、左の標準に據りて用ふ。

時期	燕麥	乾草	草切	藁	敷藁
交尾期 輕種	一、六〇〇 <small>毎斤</small>	八〇〇— 九三〇 <small>毎斤</small>	一三〇— 二七〇 <small>毎斤</small>	—	一、〇六〇— 一、三三〇 <small>毎斤</small>
交尾期 重種	二、一三〇	—	二七〇— 四〇〇	—	—
他期 輕種	八〇〇— 一、二〇〇	八〇〇— 九三〇	一三〇— 二七〇	—	—
他期 重種	一、二〇〇— 一、六〇〇	一、三三〇	二七〇— 四〇〇	—	—

以上示すところを標準とし、馬の大小種類・時期其他經濟上諸般の事情を斟酌して加減すべし。而して通常、毎日之れ

管理

を三回に分與し、水を十分に給すべし。
管理 良馬の取扱ひは、特に親切丁寧なるを要し、且飼料及健康に注意すべし。畜舎は高燥なるところに、東南に面して光線の射入、空氣の流通宜しき様に造り、室の廣さは、種牡馬には二間四方位を要す。其他の管理法は、牛に於て述べたるものと同じ。

緬羊

第四十三 緬羊

緬羊は、世界最古の家畜の一つにて、今尙盛に飼養せられつゝあり。濠洲亞米利加及び南亞弗利加にては、曠漠たる原野にて、莫大の羊毛を産し、價格亦低廉なれば、吾國にては羊毛の生産のみにて立つこと能はず。況して氣候も決して適當なりと謂ふを得ず。されば、ただ毛肉兩用の品種を蕃

大正	年度	頭	數
道	廳管内		
本支	廳管内		
本	村		

殖して、未墾の原野に放飼し、其の肉を取ると共に、一部羊毛及毛製品の輸入を補ふことを目的とすべし。

北海道には、安政四年五月、江戸より緬羊十頭函館に輸入せるを始めとするも、其成績明かならず。明治五年以來、米國より輸入せるものを以て、本道緬羊の基礎となすべし。緬羊の改良蕃殖に就ては、初め開拓使にて、東京青山に試験場をたき、渡島に桔梗野牧羊場、札幌に札幌牧羊場を設けて、之れが改良蕃殖を圖りしも、疾病の爲め大部分を失ひたり。明治二十三年、以上の牧羊場を廢し、北海道廳種畜場に移して、蕃殖をなせり。又現今にては、農商務省は瀧川に種羊場を設け、大いに之れが改良蕃殖を計れり。大正九年末には、全道に於て九百九十六頭に達せり。

一、緬羊の品種

緬羊の品種

毛用種

メリノ

今從來輸入せられたるもの、及び將來輸入蕃殖の望みある數種を掲ぐれば次の如し。

一、歐洲大陸種(毛用種)

一、メリノ 改良の度極めて高きものにして、其毛質纖細、毛の縮度多く、緊縮力大なれば、上等の織物には必要欠くべからざるものなり。

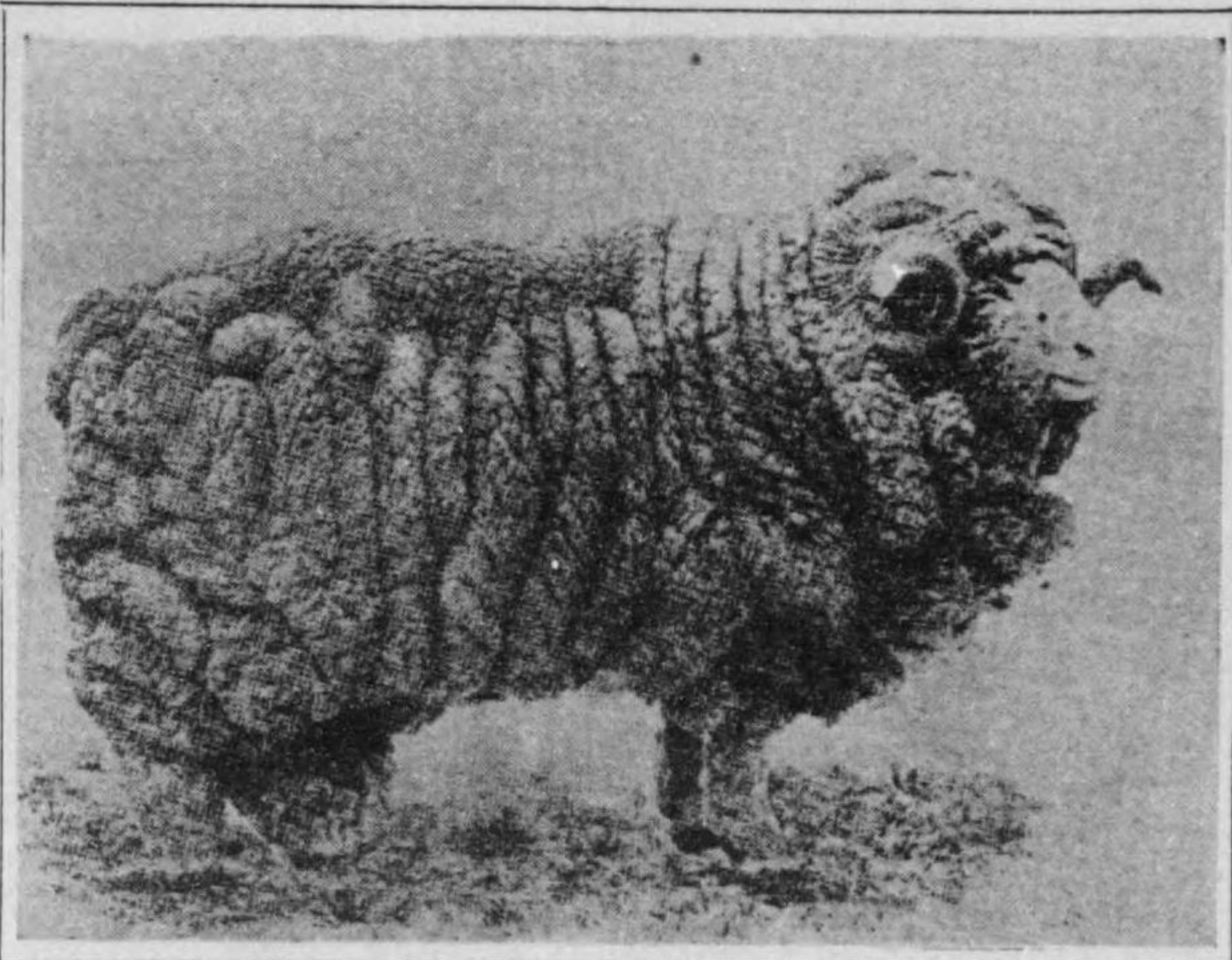
(イ) ネクレツテ・メリノ 西班牙の原産なれども、塙國にて飼養せらるゝもの多し。頭頸及胴等に、最も多く皺襞を現はすを以て特徴とす。體質弱く、飼養管理に特に懇切を要するものなり。體量牝八乃至九貫、毛長一寸乃至一寸五分、太さ十七・三〇にして、剪毛量四乃至五百匁、毛質美なり。

(ロ) ラムブイエ・メリノ 西班牙の原産なるも、佛蘭西

はミウと讀み、一耗三厘分の一なり。

に於て改良せられたれば、「フレンチメリノ」とも云ふ。體量牝十貫乃至十五貫、牡二十貫あり。毛長二寸位、太さ十七・三〇、剪毛量牡十四斤乃至十八斤、牝十斤乃至十四斤あり。

今日毛用種としては最適のものと稱せられ、體質強健なれば土地肥沃ならざるも飼養し得べし。



第七十八圖
ラムブイエ
メリノ種
(牡)

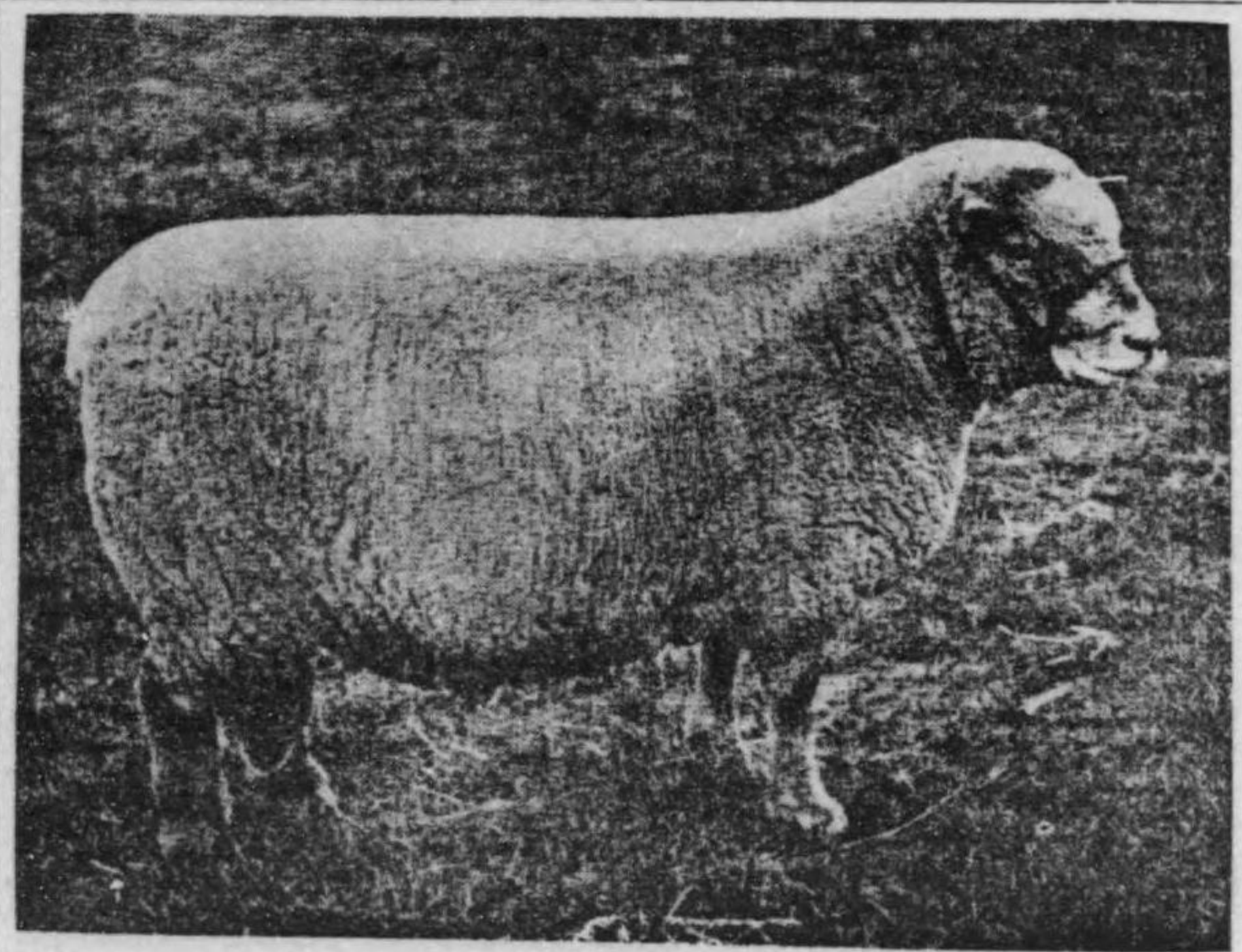
肉用種

二、英國種(肉用種)

サウスダウン

二、サウスダウン

英國サウスダウン地方の産にして、体



養に適すべし。

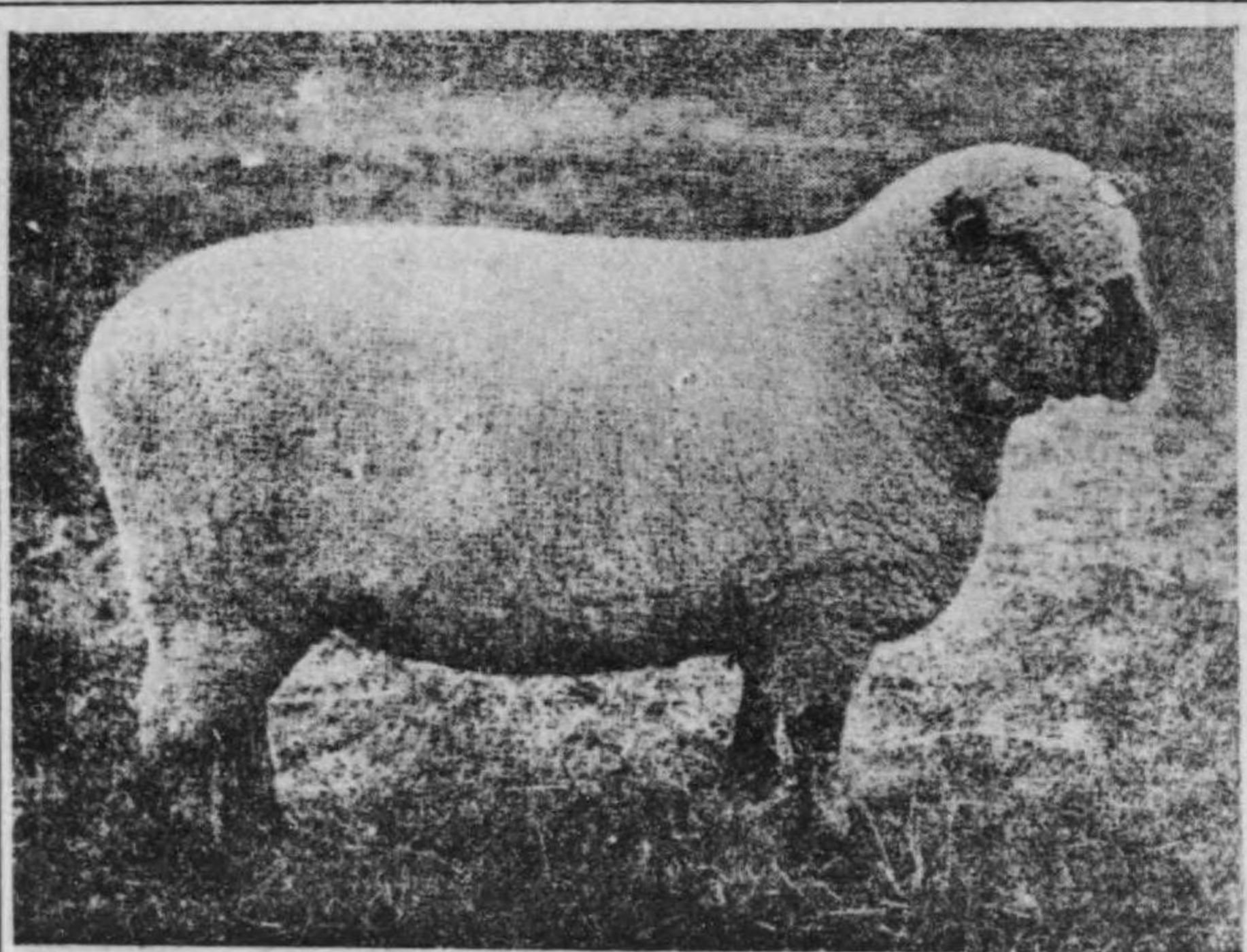
格の發育良好、早熟にして、著しく肉質佳良、歩止り亦多し。体量牡二十三貫、牝十八貫あり。毛長二寸、質毛脂に乏しく、且細美ならざれども善良の織物に供すべく、剪毛量六七斤あり。食を求むるに敏活なれば、草生宜しからざる高地にても、放牧することを得。長毛種に配して改良するもの多く、本種は農家の飼

第七十九圖
サウス
ダウソ
種
(牡)

シユロツプ
シャイアー
種

三、シユロツプシャイアー

英國の産にして、頭に角を有



第八十圖

シユロツプ
シャイアー
(牝)

せず。顔面四肢共に黒褐色なり。体量牡二十七貫、牝二十貫あり。毛長二寸八分。剪毛量牡は十二斤乃至十五斤、牝九斤乃至十斤、毛質前者より粗なり。肥滿良好にして肉の歩止り宜しく、又風土氣候に馴化し易き故、農家の飼養に適すべし。

レスター

四、レスター

英國の有名なる畜産家、ベークウエル氏に

リソコルン

よりにて、肉用に改良せられたるものにして、骨細く肉付良好、額に緬毛なく、色白し、体重牡二十貫、牝十五貫、毛絨は細美ならずと雖も長さ六寸、毛量八斤位あり。一回に二三仔を産むことありて、農家の飼養に適すべし。

五、リソコルン 英國リソカン州在來の羊を、レスターにて改良せられたるものにて、顔に毛なく、牡二十五貫、牝二十貫、毛長八寸、白色にて絹様の光澤あり。毛量十二三斤を得。風土氣候に馴化し易く平素の草生良好なる地方に於て飼養し得べし。

此の他毛用種には「エレクトーラル」「濠洲メリノー」「コリデー」「肉用種には「オックスフールドダウン」「ハンプシャー」「ダウン」「ダーレスタ」「コツウオールド」「ロムニー」「マーシユ」及支那羊等あり。

緬羊の飼養及管理

二 緬羊の飼養及管理

緬羊は性温順なる家畜なれば、一護犬あれば、一兒童又は婦女子と雖も、よく數百頭を率ゐて放牧管理し得べし。

飼養 夏期は、牧草を青刈とし、又は雜草を與ふると共に、少量の食塩を混與すれば足れり。冬期は、牧草の外、蕎麥及豆类の莖稈を與へ、玉蜀黍、大豆、麥類の少量を給し、且根菜類を適宜細斷して與ふべし。又燕麥稈は、葉部を食するのみなれば、之れを敷藁となすべし。

牧場に於ては、羊群を楔飼となさば、大家畜の嗜食せざる細軟の生草を摘食し、土地利用の便あり。而して冬期舍飼にありては、前法と同様なり。

管理 母羊は、往々羊兒の哺乳を嫌ひ、特に初産に於て此の弊多ければ、注意を要すべく、哺乳期間一二ヶ月なれば、此期

羊の	水分	脂肪	乾酪素	蛋白質	乳糖	灰分
成羊	79.46	8.63	5.23	1.45	4.28	0.97
山羊乳	86.04	4.63	3.49	0.86	4.32	0.76

蕃殖要項 (羊、山羊)

發情ノ初期 十月
 蕃殖適齡 十六月一六歳
 發情期間 一日一二月
 發情再周期 十四日一廿日
 分娩後發情 四日
 懷胎日數 四月
 羊百四十九日
 山羊百五十四日
 斷乳期 三十五日一四月
 去勢期 十日
 蕃殖歩合 八割一十割

は母羊と共に放つべし。
 放牧地は、乾燥して土質固く、良草の密生せるところをよこ
 ます。卑濕の地は、寄生蟲又は腐蹄症に、罹り易きが故に忌
 む。夏時綠蔭を得るため、樹木あるを望めども、被毛を害す
 るが如き、草木の多きところは宜しからず。又降雨後又は
 朝露の乾かざる間は、放牧を止むべく、然らざれば鼓脹病を
 起し易し。
 羊は、厚き密毛を被ふものなれば、羊舎の構造容易なり。廣
 さは大群ならば、一坪に母仔四五頭の割合にて可なるべく、
 飼料は、地上一尺五寸高さ二尺位の草架より與ふべく、穀實、
 根菜類は、下部に箱を設けて給すべし。又水槽及食塩箱は、
 別に備へて隨時食はしむべし。

三、羊 毛

羊毛は種々の用途に用ひらるれども、主として織物の原料
 となす。剪毛には、從來暖かき晴天の日を擇び、綿羊を水中
 に入れ、洗ひて後、其の乾くを俟ちて剪り取りしが、近來は洗
 ふことなく行ふもの多し。

剪毛の方法は、綿羊の臀部を据え、背を剪手の膝間に挟み、頭
 頸等の邊より初め、腹部側部四肢を剪り、最後に背部より臀
 部に及び、凡て全身の剪毛を一枚に續く様にし、これを兩側
 より中央に折り込み、一方より捲き、直ちに之れを麻布又は
 流球蒔に容れて、荷造りして賣出すか、または乾燥せる室に
 貯ふべし。

毛質を定むる要件種々あり。即ち左の如し。
 一、細度 は纖細一様なるを可とし、細毛種は十五 μ より、太
 毛種は百五十 μ に至る。

羊毛の買入先
 は、東京府下
 千代田、陸軍省
 住居、製織所に
 て、初年に限

毛質鑑定

現品發送の
 際、左記の願
 書に、町長
 の自家生羊に
 相違なき旨の
 證明書を添付
 すべし。

羊毛買上願
 一何種羊毛
 (一斤百廿分)
 右拙者生産ノ
 羊毛ニ用違無
 之候間御買上
 相成度町(村
 戸相添エ此證
 願上候也明
 年住所氏名
 陸軍省千
 付製絨所御中

- 二、縮度 はある器械を用ひて、毛が波状に屈曲する度を、測りて知るものにて、屈曲は一寸の距離に於て、十乃至三十六までありて、其の數により數等に區別せらる。其の屈曲の整一なるを良しとし、細毛は屈曲密なり。
- 三、軟度 是柔かきを宜しとす。
- 四、弾力 是主に伸張性と強靱性とを云ひ、其の大なるもの程可なり。
- 五、長さ及高さ 是一年間に延びたる毛を、引き延ばせる長さを長さ及屈曲せるまゝの長さを高さと云ふ。長さは一寸五分乃至一尺位まであり。
- 六、毛色 是多くは白色なれど、時には帶褐黒及黄色のものあり。
- 七、光澤 是一様に絹絲様の光澤あるを可とす。

豚

大正	年度	内國種	雜種	外國種	計
道	管内				
本	支管内				
本	村				

第四十四 豚

八、脂肪 是柔かくして、溶け易きを可とす。

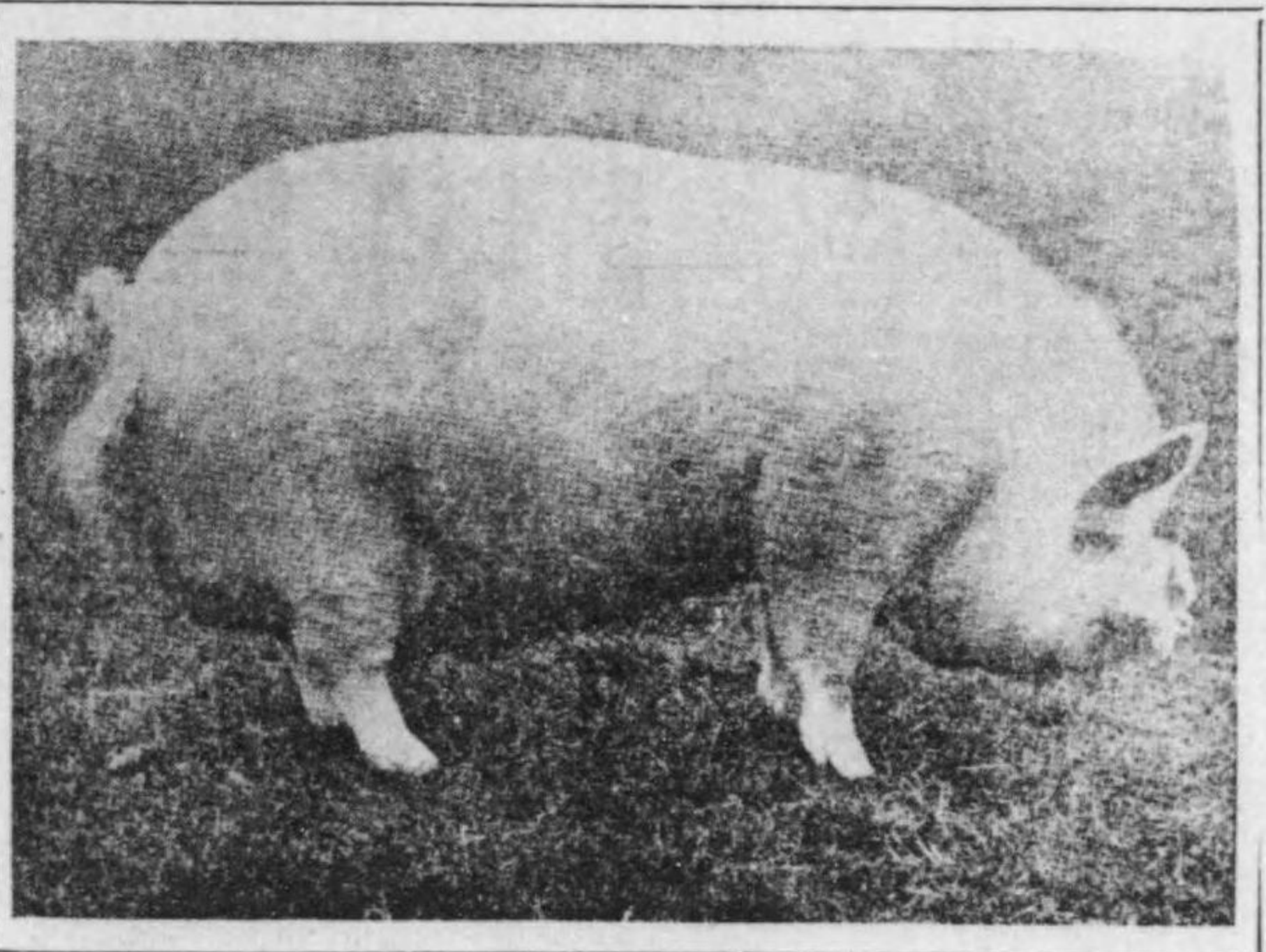
豚は體質強健にして、風土を擇ばず、殆んど到る處に適し、農場厨房等の廢物、殘搾等を利用し、管理容易なり。繁殖力強盛にして、一年に多くの仔を産し、生育早く、又能く肥満し、肉質善良にして、よく加工貯藏に堪へ、脂肪は食料として、又藥用工業用として需要多く、皮毛は諸種の工藝品の原料に供せらる。

北海道に於ては、其起原詳かならず。松前には早くより飼養せられたりと云ふ。洋種の輸入は、明治六年を始めとし、爾來豚の飼養盛となり、大正九年の統計によれば三萬三千頭なり。

豚の品種

ヨークシャー

一、豚の品種



に過ぎて不利なり。

一、ヨークシャー 英國ヨークシャーに於て、在來種と支那豚を配して改良せるものにして、之れに大・中・小の三種あり。大ヨークシャーは、皮毛白色美にして、胴長く、腿に肉よく充ち、脚短かくして垂直なり。發育繁殖力共に強く、滿一才にして四五十貫となり。十分成育すれば百貫内外に達す。然れども體大

第八十一圖
ヨークシャー
一種(牝)

第八十二圖

パークシャー
一種(牝)

パークシャー



一に似て體重六七十貫あり。

小ヨークシャーは被毛柔かく白色にして、頭短小、顔凹みて皺あり。體小、骨路細美にして、體重二十貫位なれども、頗る早熟にして、よく肥り、生肉用に適す。
中ヨークシャーは兩者の中間にありて、何れの用途にも宜し。
二、パークシャー 英國パークシャーの原産にして、在來種に支那豚を配して、作出せるものなり。形中ヨークシャー體黑色にして、顔面四肢の下

部及尾端のみ白し。顔短かく、鼻は上向し、胴圓長、脚短くして強し。體質強健、寒氣粗食に堪へ、仔兒も強健にして生育容易、肥満し易し。質肉は燻腿等加工に適す。

以上の二種は、我國最も廣く飼養せらるゝものなるが、此他「サフォーク」「チエスターホワイト」「エセツクス」「ポーランドチャイナ」及「タムウォルス」等あり。

二、豚の飼養及管理

豚の飼養
及管理

飼養 豚の飼料は極めて廣く、穀類・根菜・果實・牧草を始めとして、諸製造の残渣、または庖厨の殘物に至るまで、殆んどみな食せざるものなし。

豚は、性貪食にして、排泄迅速なれば、特に飼料の調理に意を用ひて消化し易き状態として、十分に利用せしむべし。從來豚には、食物を煮て與ふる習慣あれども、消毒を要するも

のの外は、煮るの要なく、只冬期冷たきものを、温めて與ふることは肝要なることなり。

又毎日清鮮なる飲料水と、少許の食塩とを與ふべく、幼豚には、石灰或は骨粉を一乃至二匁位與ふれば、骨骼を強くすることを得べし。

米國イリノイ州立大學教授デイートリッチ博士が養豚家の爲めに與へたる飼料標準表を示せば次の如し。

飼料の種類	一日間體量百封度に對する飼料の封度数						
	二	三	四	五	六	七	八
玉蜀黍 (引割)	二・六	二・八	三・〇	三・二	三・三	三・〇	二・六
大豆 (粉狀)	〇・八	〇・九	一・〇	〇・六	〇・八	〇・四	〇・四
脱脂乳	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	六・〇	〇・〇	〇・〇
水	六・六	五・一	三・八	二・六	一・四	五・五	四・〇

豚乳成分
水分 八四・〇
脂肪 四・五
乾酪素 一・一
蛋白質 三・三
乳糖 一・三
灰分 一・五

肥育

蕃殖要項

發情ノ初期 六ヶ月
 發情適齡 十ヶ月
 發情期間 三ヶ月
 發情再周期 十四日
 分娩後發情 四日
 懷胎日數 百十五日
 斷乳期 卅日
 去勢期 三ヶ月
 蕃殖歩合 二ヶ月
 一産平均七八頭

管理

肥育 蕃殖用の外は、生後六ヶ月乃至九ヶ月目より肥育を行ふ。
 肥育するには、運動を禁じ、溫暖にして薄暗き室に入れて、消化し易き飼料を與ふべし。飼料は、初期は蛋白質に富めるものを與へ、次期は稍含水炭素物を増し、末期にはさらに、含水炭素物を増加するなり。かくして三ヶ月乃至五ヶ月を経れば、豚は概ね肥滿の極に達し、是れよりは、更に體量を増さざるに至るべし。此期に於て直ちに屠殺を行ふべし。而して、一旦生育終りたる豚を肥育するには、飼料を多量に與へて、脂肪の集積を圖るにあり。
管理 豚舎は乾燥せるところに、東南に面して、暖かき様に建造すべし。種牡または仔付の母豚には九尺四方、蕃殖牝には一間四方、肥育豚には、四尺乃至五尺四方位の室を設け、

豚の利用

床及四壁は、厚板を以て堅牢に造り、高さ三尺以上となし、舍外運動場は、豚舎に接して設くべし。

三、豚の利用

- 一、**豚肉** 肉は生肉用の外、これを加工して、長く貯藏するものとを得べし。
- 一、**燻肉** 始め肉を鹽漬とし、三週間にしして取り出し、これを煙にて燻すときは、味美にして、長く貯藏に堪ふるものを、作ることを得。ハム、ベーコンこれなり。
- 二、**鹽漬肉** 肉を鹽漬にして、長く貯藏するものなり。
- 三、**肉の罐詰** 肉を煮て味を付け、罐詰となす。大和煮の類これなり。
- 四、**肉粉** 肉を乾燥し、之れを臼にてひき、粉となしたるものなり。

- 二、豚脂 脂肪はこれを精製して、「ラード」を作り、薬用料
理用又は人造バターの原料となす。
- 三、腸詰 豚の小腸をよく洗ひ、これに肉、鹽、香料、蔬菜、麥粉等
を詰めて煮たるものにして、味佳良、且永き貯藏に堪ふ。
- 四、毛 毛は刷毛を製するに用ふ。

第四十五 鶏

鶏は飼養管理容易にして、又資本を要するところ少なく、利益を收むること早きが故に、農家の副業として最も適せり。本道に於ける大正九年度現在を觀るに、鶏の總數は、成禽約四十八萬羽、雛鶏六十一萬羽にして、産卵數四千三十萬個、此の價格、約二百六十三萬圓の巨額なれども、なほ道内の需要を充たすに足らず、道外より、卵二百四十萬個、此の價格二十

大正	年度	飼養	産卵	個數	鶏	數	産卵	個數
道	總	管内						
本	支	管内						
本	村							

八萬五千圓を輸入せり。而して本邦總體より見るときは、鶏卵の生産は國內の消費を繕ふに足らず、支那より年々百數十萬圓を輸入しつゝあり。此の時に當り、農家は養鶏を盛んにして、國內の需要に應ずるは勿論、進んで輸入を阻絶するは最も緊要のことなり。

一、鶏の品種

一、卵用種

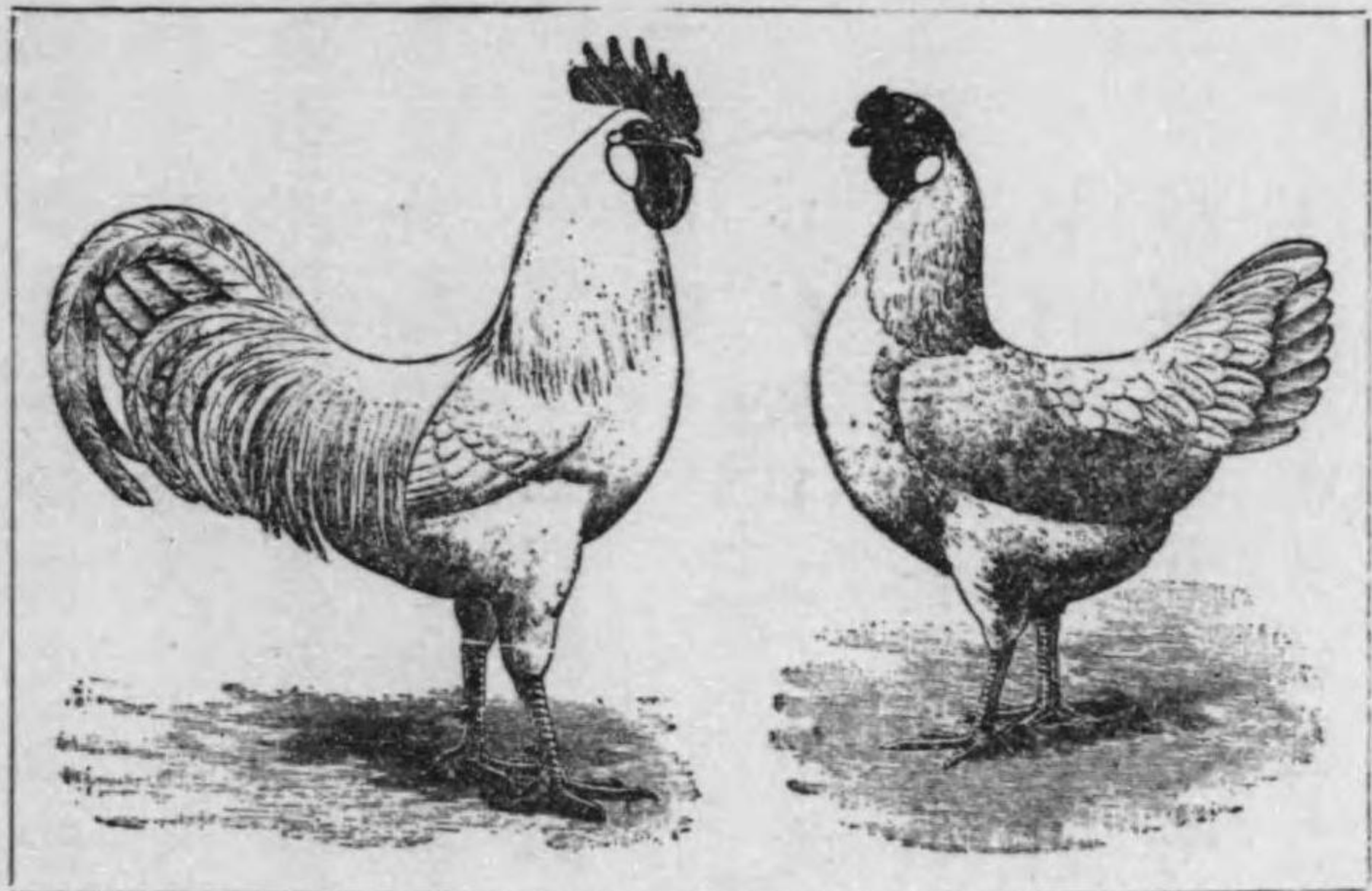
一、レグホーン 伊太利の原産なるも、英國及米國にて改良せられたるものにして、其の種類多く、我國にては、白色種最も多數を占め、褐、淡黄、黄色、黑色等之れに次ぐ。體軽く緊りて、姿勢優美、冠には、單冠のもの、薔薇冠のもの、ごあり。耳朶は白色、脛は裸にして黄色なり。體量、雄六百六十匁乃至八百四十匁、雌五百四十匁乃至六

鶏の品種

卵用種

レグホーン

第八十三圖
單冠白色種
レグホン
雌雄
アングアル
シヤン



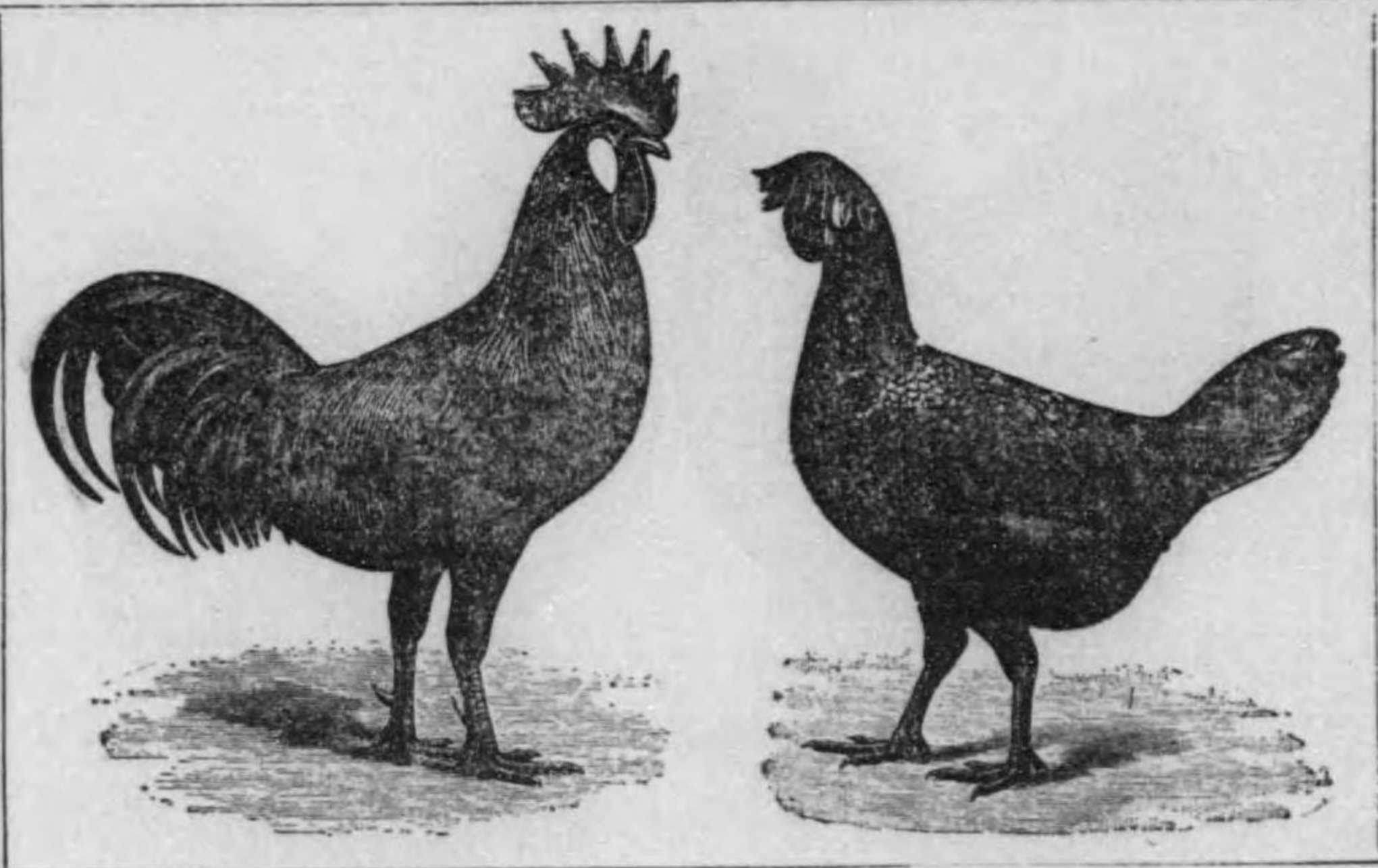
く似たり。

百六十匁、頗る早熟にて産卵多く、一ケ年に百八十個乃至二百三四十個を産し、一個十五六匁、殻色白し。體質強健にて、よく氣候風土の變に耐へ、放飼に適す。然れども就巢の念に乏しきが故に、母鶏に適せず。

二、アングアルシヤン 西班牙のアングアルシヤン州に於て、ミノルカの白色種と、黑色種との雜種によりて、成立せりと云ふ。さればミノルカによ

第八十四圖

黒色種
ミノルカ
雌雄
ミノルカ

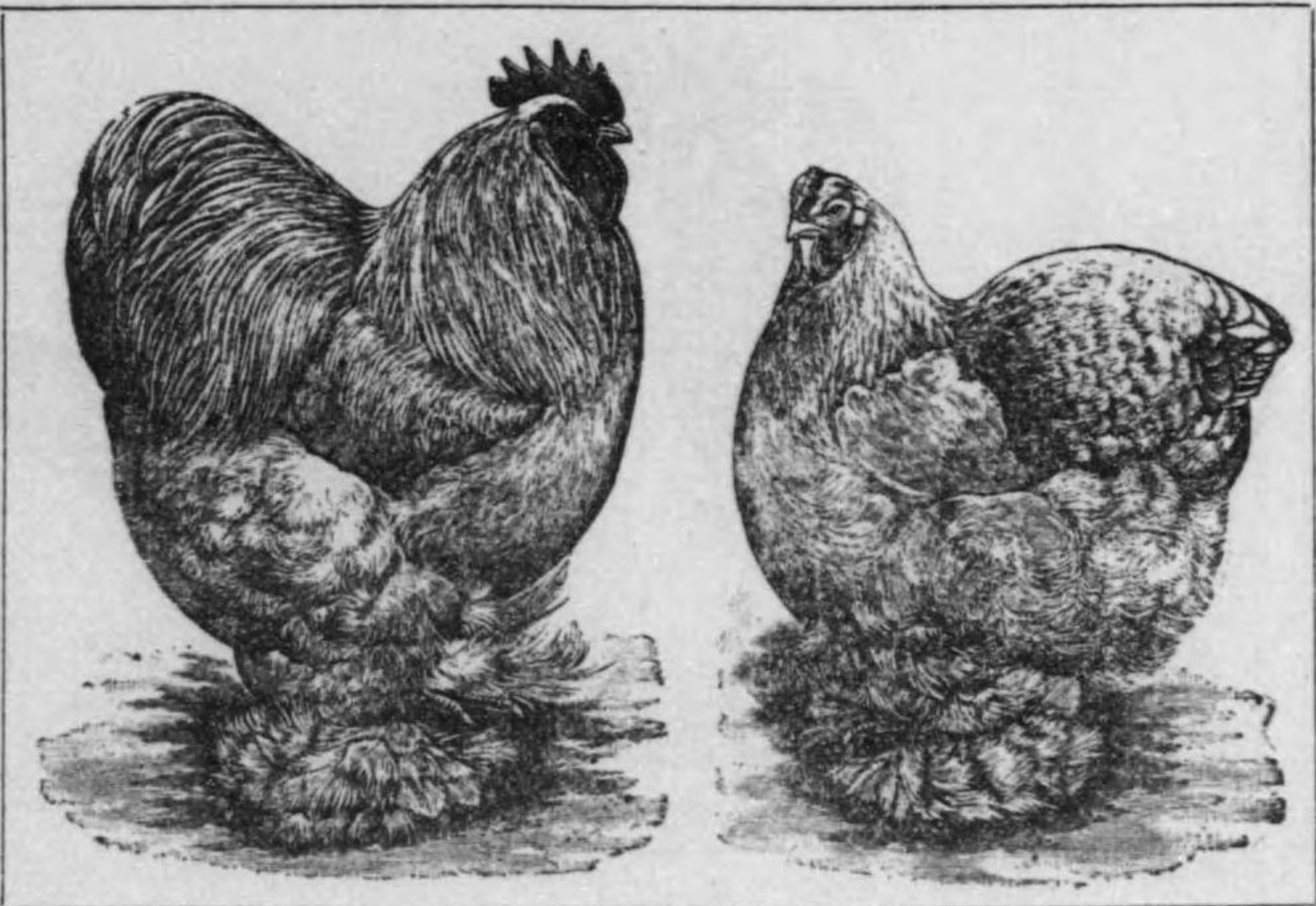


羽色は、均一なる灰青色に、暗色の外縁を有し、雄鶏の頸羽、鞍羽、尾羽等は暗色なり。體量、雄七百二十匁乃至八百四十匁、雄五百四十匁乃至六百六十匁に達し、一ケ年百五十個内外の産卵あり。

三、ミノルカ 地中海ミノルカ島の原産にて、體長大、黒色種を普通とすれども、亦白色種あり。冠、肉髯ともに大きく、耳朵白く、脛は暗色

第八十五圖
パフ色
コーチン
雌雄
鶏種

ハンバーク



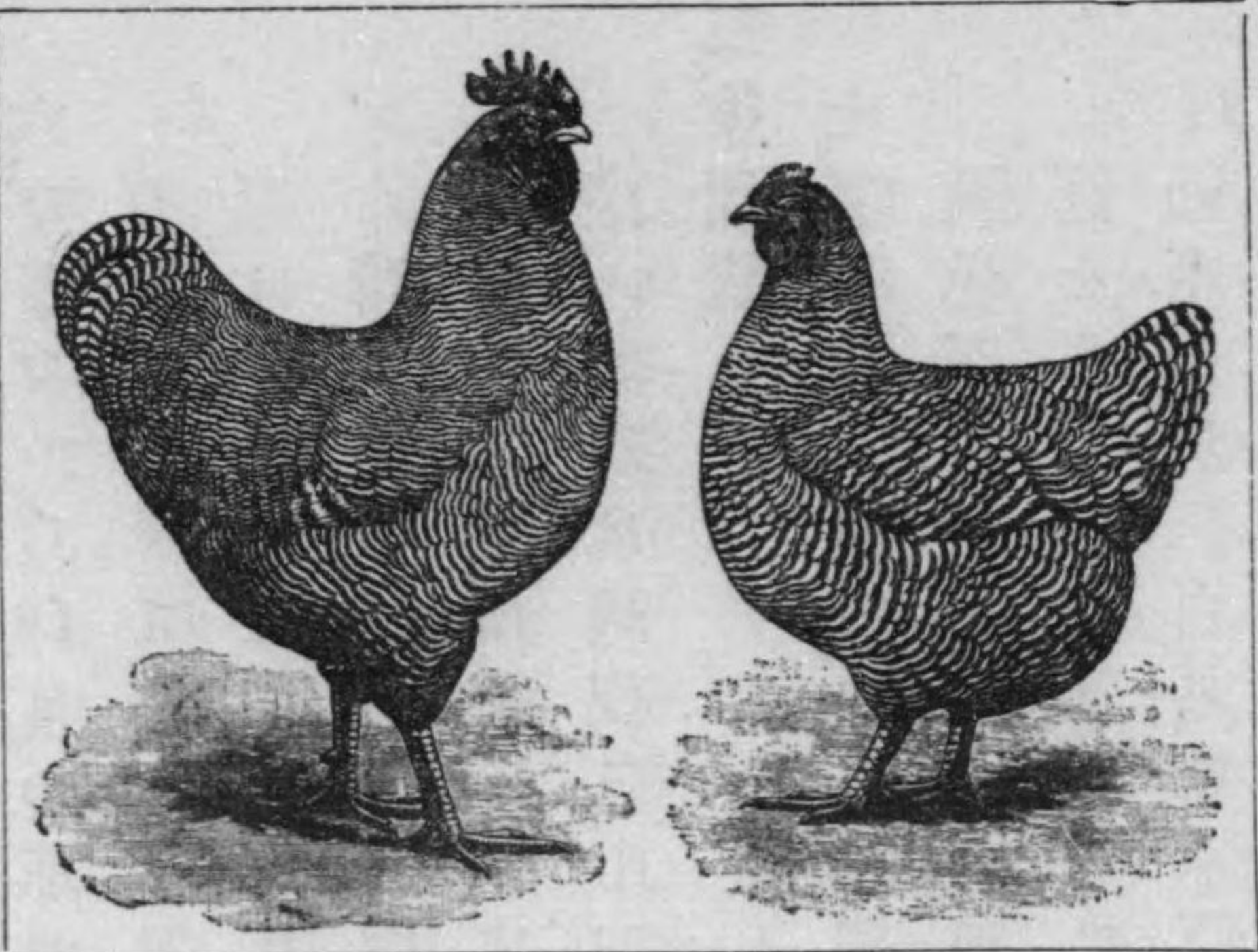
なり。體重、雄七百二十匁
乃至八百四十匁、雌六百匁
乃至七百二十匁にして、一
ケ年の産卵百八十個乃至
二百二十個に達す。而し
て卵は一個十八九匁、卵殻
白色なり。母鶏及肉用に
適せず。

四、ハンバーク 英國の原産
にて、體小、金色と銀色とあ
り。姿勢輕快、形よき薔薇
冠を有し、耳朶白く、脛は灰
色なり。體量、雄六百匁、雌

肉用種

コーチン

第八十六圖
横斑プリモ
スロツク
雌雄
鶏種



五百匁、一ケ年二百個を産み、卵殻白色にして、一個十三
匁あり。就巢性乏しく、柵
飼に適せず。

二、肉用種

五、コーチン 支那の中北部

の原産にて、體格大きく、雄
一貫三百匁、雌一貫匁位あ
り。耳朶赤く、脛は黄色に
て、脛羽を著く、一ケ年百五
十個位産卵し、卵殻は淡褐
色にて中形なり。体強健
にして、寒氣に耐へ、よく肥
内種としては、パフを普通と

満し、性溫和、母鶏に適す。

ブラマ

し、黒色、白色及びパートリツヂ等あり。

六、ブラマ 東印度の原産にて、体大、雄一貫四百匁、雌一貫百匁位ありて、恐らく鶏中最大のものならん。

冠は三枚冠にして、脚には多くの羽を有し、体色に、淡色と暗色との二あり。強健にて寒氣に耐へ、肥育性強くして、肉質美、母鶏に適す。一ケ年に、百三十個位の卵を産み、卵殻は淡褐色、中卵なり。

兼用種

三、兼用種

プリマス
ロツク

七、プリマスロツク 米國の原産にして、横班種、白色種、淡黄色種、黒色種、及褐色種等の種類あり。体大、小さき單冠を有し、耳朵赤し、脛は黄色なり。体量、雄九百六十匁乃至一貫三百匁、雌八百四十匁乃至一貫二百匁、産卵は、一ケ年百五十個位にて、一個十七八匁、割合に冬期産卵

オーピントン

し、卵殻は褐色、性温良にして、母鶏に適す。

八、オーピントン 英國のオーピントン地方に於て、成立せしものにして、普通單冠、耳朵赤く、黒色、バフ、白色等の種類あり。

体量、雄一貫二百匁、雌一貫匁内外、産卵は一ケ年に百五六十個にして、一個十五六匁の重量あり。卵殻は褐色にて、冬期の産卵多し。肉は白く、柔軟にして美味なり。性温和、母鶏に適す。

名古屋
コーチン

九、名古屋コーチン 愛知縣に於て、バフコーチンと在來種との雜種によりて、成立せるものにして、其の形、凡そバフコーチンに類似すれども、一體に體少さく、且近時脛に羽なきもの作出せられたり。体量、雄九百匁、雌七百匁にて、一年百三四十個、褐色中等大の卵を産す。

鶏の飼養
及管理
飼養

此の他ワイアードツトランシヤン等有名なり。

二、鶏の飼養及管理

飼養 鶏の飼料には、植物質と動物質とあり。普通に得易きものは、小麥・燕麥・玉蜀黍等の穀實類、米糠・麩・豆腐粕及蔬菜類の如き植物質と、魚介肉類の如き動物質の飼料なり。

飼養は一般に、朝は麩糠類を湯にて煉り、これを根菜類の糞たるものなど、加へたる煉餌を與へ、晝は蔬菜・骨粉・穀實の少量を給し、夕は消化に長時間を要して、空腹を感ずることなく體温を保たしむるために、粒餌を與ふるをよしとす。而して冬期は、脂肪にとめる玉蜀黍を多く加用すべし。

卵殻を作るには、石灰質を要するが故に、蠣殻粉或は漆喰粉等を與へ、飲料水は毎日欠かさず與ふべし。

肥育 雄鶏は、生後四ヶ月位に睪丸を割去し、十日間を経て

肥育

後肥育をなす。肥育は、高さ奥行とも一尺七八寸、幅八寸位の箱に鶏を閉居せしめ、これを乾燥せる暗室にたき、初め一日間絶食せしめ、二日目より強飼法を行ふものなり。強飼法とは、強制的に人工を以て肥育せしむるものにして、この法に二あり。

第一法は、麥粉・蕎麥粉・玉蜀黍粉等を牛乳にて固く捏ね、小指大七分位の長さとし、一日二回、鶏の口を開きて押し込むものなり。初日は二、三本を用ひ、毎日一本宛を増して、大抵十五本に及び、かくて二十日間にて終るべし。

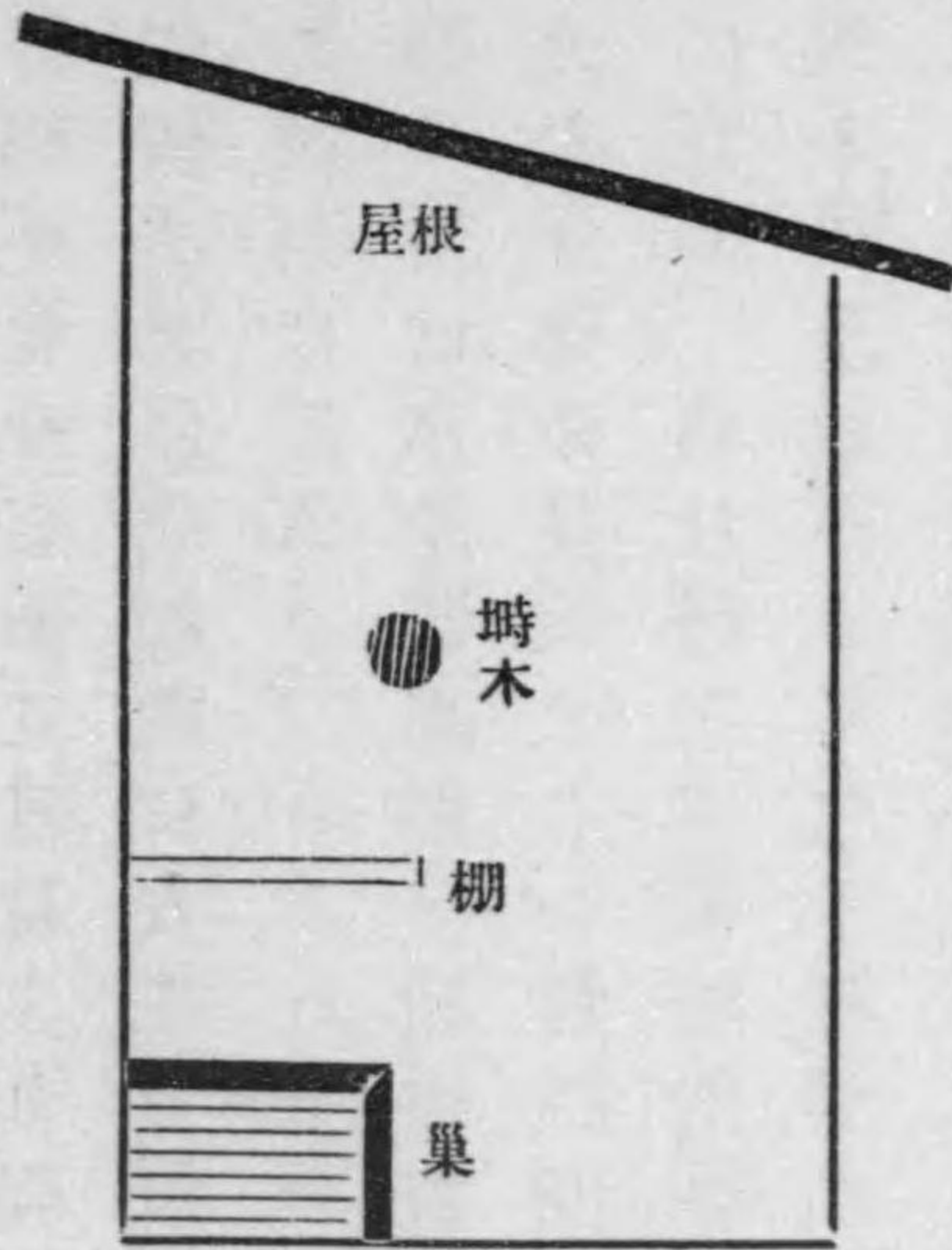
第二法は、麥粉類を、牛乳と水とを等分に混ぜたる液に、緩く溶き、漏斗或はクラッキングマシンと稱する器械を用ひて、注ぎ込むものなり。而して飼量は、嗉嚢に充滿するを度とし、一日三回づゝ與へ、二十日間にして終る。

管理

管理 本道に於ては、冬期五六ヶ月間は舍飼をなす故、鶏舎の構造には最も注意を要すべし。鶏舎は日當りよき乾燥地に、南面して建て、面積四五坪には二三十羽を飼ふことを得。窓は廣く設け、壁は厚く土を塗りて、防寒の設備を施すべし。

	鶏	叶緩鶏	鶯	鶯
蕃殖適齡	6ヶ月-3歳	3-8歳	2-3歳	3-8歳
孵化日數	21日	29日	29日	29日
去勢期	3ヶ月			

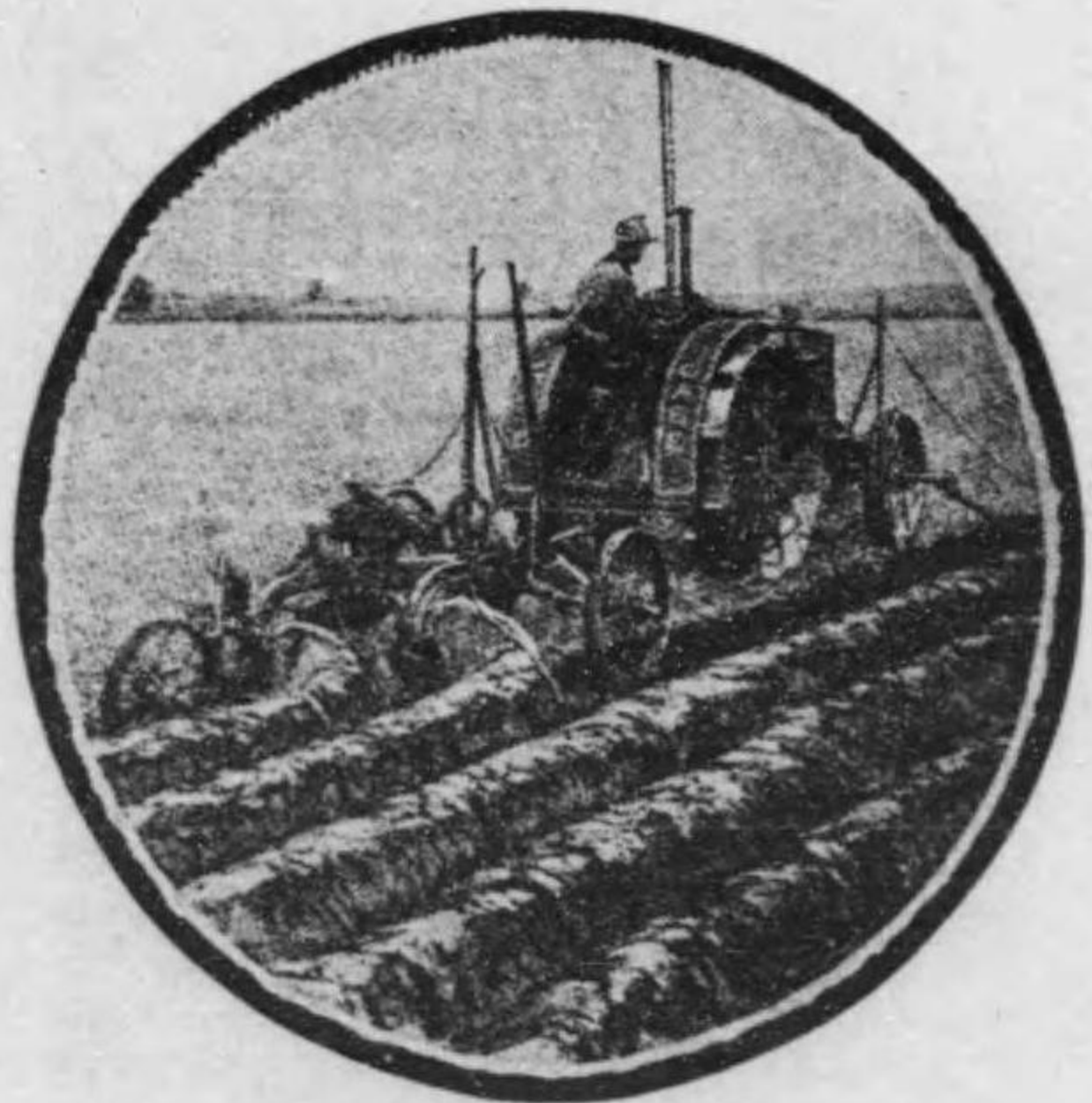
第八十七圖 鶏舎断面



さ五寸位の木箱に、柔き藁を敷き、これを側壁に懸くべし。冬期は、舍内に長さ一尺位の切藁を、厚く撒布して穀實の攪

拌搜索をなさしむるを可とす。又一方に砂浴箱を設くべし。舍外運動場は、卵用種は一羽に付十尺四方以上、肉用種は六尺四方以上の割合に區劃し、側圍は鐵鋼にて高さ六尺の柵を設くべし。

第八十八圖
トラクタ
にて、土壌
耕起作業



北海道農業指針終

大正十三年八月五日印刷
大正十三年八月十日發行

北海道農業指針
定價 金壹圓五十錢



著者 吉田甚内

發行者 清田惇作
印刷者 清田惇作
十勝國帶廣町大通五丁目九番地

發行所 十勝國帶廣町大通五丁目 清田五峯堂
取次所 十勝國帶廣町西二條九丁目 笹谷一貫堂
電話 二二二番
振替口座 小樽六四五九番

時運は本道農業の合理的經營を要求する事極めて多し吉田先生今般本書の發刊は本道農家子弟を益するもの甚大なるは云ふ迄もなく吾々種苗業に従事する者も亦得る處僅少ならず依て著者に對し深く感謝の意を表す



東北農園

主園 農學士 松尾修一

營業種目
種苗・球根・各種
苗木・農具・機械
石油エンジン其他

札幌市北二條東二丁目二番地
電話 一五二一九番
振替口座 小樽二六九番

322
1108

終

